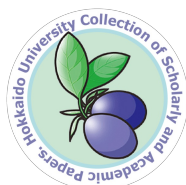




Title	第1章 地域住民とアイヌの人々との交流状況：札幌市とむかわ町
Author(s)	小野寺, 理佳
Citation	北海道アイヌ民族生活実態調査報告, 4, 13-50
Issue Date	2015-09-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/60108
Type	departmental bulletin paper
File Information	AINUrep04 (5).pdf



第1章 地域住民とアイヌの人々との交流状況

——札幌市とむかわ町——

小野寺理佳

名寄市立大学保健福祉学部教授

はじめに

本章では、札幌市およびむかわ町における地域住民とアイヌの人々との交流の実態、およびそれらの交流を規定する諸条件を探る。その際、交流の内容を、「近所付き合い」「職場での付き合い」「趣味の付き合い」「子どもを介した付き合い」「インターネットを介した付き合い」「学生時代からの付き合い」（「その他」）に分類する。

分析にあたっては、交流の内容が年齢によって大きく異なることが予想されることから、住民を3世代、すなわち青年層（20～30歳代）、壮年層（40～50歳代）、老年層（60歳代以上）に分ける。なお、回答者のほとんどは和人であるが、アイヌ系住民もわずかに含まれる。そこで、本章では、アイヌ性と世代を組み合わせて、アイヌ性4パターン、すなわち、〈和人〉〈本人がアイヌの血筋の者〉〈配偶者がアイヌの血筋の者〉〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉について、それぞれ世代（青年層、壮年層、老年層）毎に集計する¹⁾。「家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た」と回答している者は、アイヌの血筋ではないがアイヌの人々と親密な間柄にある（あるいは、親密な間柄にあったことがある）と判断される人々であるが、場合によってはアイヌの血筋である可能性も考え、便宜上、和人とは別のグループとしている。

第1節 札幌市、むかわ町それぞれにおける交流の全体像

第1項 交流頻度

はじめに、札幌市とむかわ町におけるアイヌの人々との交流の全体像をとらえよう。表1-1-1、表1-1-2は交流頻度をまとめたものである。それによると、札幌市全体では、交流が「よくある」0.5%、「たまにある」3.1%であり、「交流あり」（「よくある」「たまにある」の合計、以下同じ）は3.6%である（表1-1-1）。交流はきわめて低調である。一方、むかわ町全体では、交流が「よくある」25.6%、「たまにある」30.6%であり、56.2%が「交流あり」と回答している（表1-1-2）。札幌市の3.6%とむかわ町の56.2%を並べてみると、アイヌの集住地であるむかわ町における交流頻度の高さは際立っている。〈和人〉だけの数値を見ると、札幌市における「交流あり」は2.9%、むかわ町における「交流あり」は53.8%であり、〈和人〉以外のグループによって「交流あり」の数値が若干押し上げられていることがわかる。そこで、〈和人〉以外の3グループについて「交流あり」を見るならば、札幌市では〈配偶者がアイヌの血筋の者〉100.0%、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉16.0%、むかわ町では、〈本人がアイヌの血筋の者〉50.0%、〈配偶者がアイヌの血筋の者〉100.0%、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉78.0%である。アイヌの血筋の者やアイヌ文化をより知る者において、アイヌの人々との交流が和人よりも相対的に盛んであることは明らかといえよう。このとき、

むかわ町の〈本人がアイヌの血筋の者〉の数値50.0%が〈配偶者がアイヌの血筋の者〉100.0%、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉78.0%よりも低いことについては、身内の付き合いが除かれたうえでの交流について回答されている可能性が考えられる。

さて、この交流頻度をアイヌ性と世代を組み合わせるとどうだろうか。まず、札幌市について見る。〈和人〉の「交流あり」の数値に着目すると、青年層3.1%、壮年層2.2%、老年層3.6%であり、世代による交流状況の違いを明確に提示することは難しい。次いで、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉の「交流あり」を見ると、青年層37.5%、壮年層0.0%、老年層14.3%であり、青年層の数値が最も高く、壮年層の数値が最も低い。

次に、むかわ町の状況を見ていこう。〈和人〉の「交流あり」は、青年層28.5%、壮年層49.1%、老年層64.2%である。「交流あり」の世代間格差が顕著で、さらに、青年層から老年層へ世代が上がるにしたがって「交流あり」の比率が順次上昇するという特徴が認められる。この特徴は、〈和人〉以外のグループについては当てはまらない。すなわち、〈本人がアイヌの血筋の者〉では、壮年層50.0%、老年層50.0%、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉では、青年層100.0%、壮年層68.4%、老年層80.0%となっている。〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉においては、青年層の数値が最も高く、壮年層の数値が最も低い。

表1-1-1 アイヌの人々との交流頻度（アイヌ性別・世代別）・札幌

	度数（年齢層毎の応答者数の%）					合計
	よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	不明	
和人青年層	0 (0.0)	4 (3.1)	6 (4.6)	121 (92.4)	0 (0.0)	131 (100.0)
和人壮年層	1 (0.4)	4 (1.8)	11 (4.9)	205 (91.5)	3 (1.3)	224 (100.0)
和人老年層	1 (0.5)	6 (3.1)	10 (5.1)	176 (89.8)	3 (1.5)	196 (100.0)
和人 計	2 (0.4)	14 (2.5)	27 (4.9)	502 (91.1)	6 (1.1)	551 (100.0)
配偶者（老）	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（青）	0 (0.0)	3 (37.5)	1 (12.5)	4 (50.0)	0 (0.0)	8 (100.0)
家族（壮）	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (10.0)	9 (90.0)	0 (0.0)	10 (100.0)
家族（老）	0 (0.0)	1 (14.3)	0 (0.0)	6 (85.7)	0 (0.0)	7 (100.0)
家族 計	0 (0.0)	4 (16.0)	2 (8.0)	19 (76.0)	0 (0.0)	25 (100.0)
合計	3 (0.5)	18 (3.1)	29 (5.0)	521 (90.3)	6 (1.0)	577 (100.0)

注) 配偶者（老）：配偶者がアイヌの血筋であると回答した老年層。家族（青）、家族（壮）、家族（老）：家族・親戚からアイヌ文化に関する知識を得たと回答した青年層、壮年層、老年層。以下、札幌全表において同じ。

表1-1-2 アイヌの人々との交流頻度（アイヌ性別・世代別）・むかわ

	度数（年齢層毎の応答者数の%）					合計
	よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	不明	
和人青年層	12 (17.1)	8 (11.4)	13 (18.6)	36 (51.4)	1 (1.4)	70 (100.0)
和人壮年層	30 (18.4)	50 (30.7)	28 (17.2)	49 (30.1)	6 (3.7)	163 (100.0)
和人老年層	69 (28.4)	87 (35.8)	44 (18.1)	32 (13.2)	11 (4.5)	243 (100.0)
和人 計	111 (23.3)	145 (30.5)	85 (17.9)	117 (24.6)	18 (3.8)	476 (100.0)
本人（壮）	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
本人（老）	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
本人 計	2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（青）	4 (66.7)	2 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (100.0)
家族（壮）	6 (31.6)	7 (36.8)	3 (15.8)	2 (10.5)	1 (5.3)	19 (100.0)
家族（老）	11 (44.0)	9 (36.0)	2 (8.0)	1 (4.0)	2 (8.0)	25 (100.0)
家族 計	21 (42.0)	18 (36.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	50 (100.0)
合計	136 (25.6)	163 (30.6)	91 (17.1)	121 (22.7)	21 (3.9)	532 (100.0)

注) 本人（壮）、本人（老）：本人がアイヌの血筋であると回答した壮年層、老年層。配偶者（壮）：配偶者がアイヌの血筋であると回答した壮年層。家族（青）、家族（壮）、家族（老）：家族・親戚からアイヌ文化に関する知識を得たと回答した青年層、壮年層、老年層。以下、むかわ全表において同じ。

このように、むかわ町の〈和人〉では、世代が上がるにしたがって交流頻度が確実に高まるという特徴がある。また、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉においては、両地域とも青年層の交流頻度が最も高く、壮年層の数値が最も低い。青年層の数値が高いことについては、アイヌ文化に関する知識を得るに至った過程で、アイヌの人々と何らかの接触を持つてからの年月が年長世代に比べれば短いことが推察され、その比較的新しい接触の経験が交流と認識されているということが考えられる。

第2項 交流の内容

では、交流の内容とは具体的にはどのようなものなのだろうか。「交流あり」と回答した者にその内容を問うた結果（複数回答）をまとめたものが表1-2-1と表1-2-2である。札幌市の〈和人〉においては、数値の高い順に「その他」40.6%、「職場付き合い」28.1%、「趣味の付き合い」と「学生時代」がともに12.5%、「近所付き合い」9.4%、「子どもを介した付き合い」3.1%となっている（表1-2-1）。ここで「その他」の内容を見ると、アイヌ関係の文化教室・催し物・展示会・イベント、アイヌ資料館、飲食店の客、檀家、仕事関係といった記述があり、なかには「職場の付き合い」や「趣味の付き合い」に分類され得るものも見受けられる。「その他」が選択された理由として考えられるのは、この問いが「継続的な交流の習慣」を尋ねるものと理解されたために、回答者が「一時的な出会い」あるいは「偶発的な出会い」として認識しているものは「その他」に分類されたということである。

〈配偶者がアイヌの血筋の者〉では、「その他」100.0%、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉では、「職場付き合い」20.0%と「その他」80.0%である。この場合の「その他」の内容は、〈配偶者がアイヌの血筋の者〉では妻であり、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉では、アイヌ文化資料館に行くこと、父の仕事関係で会ったことがある、親戚にアイヌの血が入っている方がいる、である。こうしてみると、〈和人〉以外のグループにおける「その他」は、和人の場合のような特別なイベントや出来事というよりは、日常生活の一端として、「交流」以前のもの＝「その他」として語られていると推察される。

これに対して、むかわ町の〈和人〉における交流の内容は、数値の高い順に、「近所付き合い」47.2%、「職場付き合い」38.3%、「学生時代からの付き合い」23.4%、「その他」15.9%、「子どもを介した付き合い」14.8%、「趣味の付き合い」14.5%となっており、「近所付き合い」の数値が最も高い（表1-2-2）。「その他」の内容は、店の客、店の従業員、アイヌの行事、昔からの知り合い、ある会で知り合った、法事、顔見知り、仕事、子どものときからの付き合い、老人会、主人の友人の知り合い、婦人部、同級生、友人の知り合い、自治会、友人、孫がアイヌ血縁、文化協会、町議などである。札幌市〈和人〉における「その他」の内容と見比べると、文化教室・催し物・展示会・イベントのような「消費者」として参加する類のものが見られないところに特徴がある。

このように、札幌市における「近所付き合い」の低調さとは大きく異なり、むかわ町では生活に根ざした交流がより広範におこなわれている。この地がアイヌ集住地であり、日常生活の様々な場面でアイヌの人々と出会う環境であることを示すものといえる。生活に根ざした交流がよりさかんであるという点は〈和人〉以外の2グループについても同様である。たとえば、〈配偶者

がアイヌの血筋の者〉では、「近所付き合い」「職場付き合い」「その他」が同率50.0%、また、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉では、数値の高い順に、「近所付き合い」47.7%、「職場付き合い」45.5%、「趣味の付き合い」と「学生時代からの付き合い」がともに25.0%、「子どもを介した付き合い」と「その他」がともに18.2%、「インターネットを介した付き合い」2.3%となっており、札幌市では回答ゼロであった「近所付き合い」が上位を占める。ただし、〈本人がアイヌの血筋の者〉における交流内容は「その他」100.0%となっている。ここで、「その他」の内容を確認すると、〈配偶者がアイヌの血筋の者〉における「その他」は身内付き合い、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉における「その他」は旧友、職場、親戚、法事、町内会行事、〈本人がアイヌの血筋の者〉における「その他」もまた身内付き合いである。したがって、〈本人がアイヌの血筋の者〉は、プライベートなつながりを中心とする交流を行っていることがうかがわれる。

そこで、世代毎にさらに詳しく考察する。札幌市から順に見ていこう。〈和人〉について「交流あり」が最も高比率のものとその次のものを並べると、青年層では、「趣味の付き合い」と「その他」が同率28.6%、「職場付き合い」と「子どもを介した付き合い」と「学生時代からの付き合い」が同率14.3%、壮年層では、「職場付き合い」50.0%、「その他」40.0%、老年層では、「その他」46.7%、「近所付き合い」と「職場付き合い」が同率20.0%となる。青年層と壮年層では「近所付き合い」はゼロである。こうした状況は、一般に職業生活や家庭生活の比重が年代によって異なることに対応していると考えられる。つまり、青年層では趣味、仕事、家庭、友人との付き合いが幅広くなされているが、壮年層では仕事中心の暮らしとなり、老年層では退職等により仕事の比重が下がり、地域での生活の比重が高まるということである。〈和人〉以外のグループを見ると、〈配偶者がアイヌの血筋の者〉の老年層では「その他」100.0%であり、その内容は、先に述べたように、妻である。また、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉の青年層では「職場付き合い」25.0%、「その他」75.0%であり、「その他」の内容は、これも先に示したように、アイヌ文化資料館に行く、父の仕事関係で会ったことがある、親戚にアイヌの血が入っている方がいる、である。同・老年層では「その他」100.0%であるが、その具体的内容についての記述はない。

次いで、むかわ町について見る。むかわ町の〈和人〉についても、上と同じく、「交流あり」が最も高比率のものとその次のものを抜き出すと、青年層では、「職場付き合い」50.0%、「近所付き合い」34.6%、壮年層では、「職場付き合い」50.5%、「近所付き合い」48.4%、老年層では、「近所付き合い」48.5%、「職場付き合い」29.8%となっている。3世代とも「近所付き合い」と「職場付き合い」が1位2位を占めているが、就労世代である青年層と壮年層では「職場付き合い」の比率がより高く、リタイヤ世代である老年層では「近所付き合い」の方がより多くなされている。〈和人〉以外のグループでは、〈配偶者がアイヌの血筋の者〉の壮年層において「近所付き合い」「職場付き合い」「その他」が同率50.0%、〈本人がアイヌの血筋の者〉の壮年層と〈本人がアイヌの血筋の者〉の老年層ではそれぞれ「その他」100.0%である。「その他」の内容を確認すると、いずれも身内の付き合いであり、自身あるいは配偶者がアイヌの血筋である者にとっては、家族や親族を通じての内輪の付き合いをしているものの、それに「交流」という語を当てることには若干の迷いがあるということだと思われる。これに対して、〈家族や親戚を通してアイヌ文

化に関する知識を得た者〉においては相対的により多様な交流が実践されている。最も数値が高いものとその次に高いものをあげると、青年層では、「職場付き合い」66.7%、「近所付き合い」50.0%、壮年層では、「職場付き合い」60.0%、「近所付き合い」と「学生時代からの付き合い」がともに46.7%、老年層では、「近所付き合い」47.8%、「職場付き合い」と「趣味の付き合い」と「その他」が同率30.4%である。「その他」の内容は、旧友、職場、法事、町内会であり、日常生活の中の一場面としてあげられているように見受けられる。

こうしてみると、札幌市では、世代による交流内容の分散傾向がより高いのに対して、むかわ町では、各世代の交流内容において「近所付き合い」と「職場付き合い」が必ず上位を占めているという違いがある。しかしながら、両地域の〈和人〉とむかわ町の〈和人〉以外のグループの一部では、青年層と壮年層においては「近所付き合い」より「職場付き合い」の比率が高く、逆に老年層では「近所付き合い」の比重が高まってくることが指摘される。年代によるライフスタイルの違いが交流内容の違いに影響していると考えられる。

表1-2-1 アイヌの人々との交流の内容（複数回答）（アイヌ性別・世代別）・札幌

	度数（年齢層毎の応答者数の%）						合計
	近所付き合い	職場付き合い	趣味の付き合い	子どもを介した付き合い	学生時代からの付き合い	その他	
和人青年層	0 (0.0)	1 (14.3)	2 (28.6)	1 (14.3)	1 (14.3)	2 (28.6)	7 (21.9)
和人壮年層	0 (0.0)	5 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (10.0)	4 (40.0)	10 (31.3)
和人老年層	3 (20.0)	3 (20.0)	2 (13.3)	0 (0.0)	2 (13.3)	7 (46.7)	15 (46.9)
和人 計	3 (9.4)	9 (28.1)	4 (12.5)	1 (3.1)	4 (12.5)	13 (40.6)	32 (100.0)
配偶者（老）	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
家族（青）	0 (0.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (75.0)	4 (80.0)
家族（壮）	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
家族（老）	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (20.0)
家族 計	0 (0.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (80.0)	5 (100.0)

注）インターネットは回答者ゼロなので欄を削除。

表1-2-2 アイヌの人々との交流の内容（複数回答）（和人・世代別）・むかわ

	度数（年齢層毎の応答者数の%）							合計
	近所付き合い	職場付き合い	趣味の付き合い	子どもを介した付き合い	インターネットを介した付き合い	学生時代からの付き合い	その他	
和人青年層	9 (34.6)	13 (50.0)	5 (19.2)	8 (30.8)	0 (0.0)	7 (26.9)	2 (7.7)	26 (9.0)
和人壮年層	45 (48.4)	47 (50.5)	6 (6.5)	24 (25.8)	0 (0.0)	29 (31.2)	15 (16.1)	93 (32.1)
和人老年層	83 (48.5)	51 (29.8)	31 (18.1)	11 (6.4)	0 (0.0)	32 (18.7)	29 (17.0)	171 (59.0)
和人 計	137 (47.2)	111 (38.3)	42 (14.5)	43 (14.8)	0 (0.0)	68 (23.4)	46 (15.9)	290 (100.0)
本人（壮）	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (50.0)
本人（老）	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (50.0)
本人 計	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)	2 (100.0)
配偶者（壮）	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
家族（青）	3 (50.0)	4 (66.7)	2 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (33.3)	0 (0.0)	6 (13.6)
家族（壮）	7 (46.7)	9 (60.0)	2 (13.3)	5 (33.3)	0 (0.0)	7 (46.7)	1 (6.7)	15 (34.1)
家族（老）	11 (47.8)	7 (30.4)	7 (30.4)	3 (13.0)	1 (4.3)	2 (8.7)	7 (30.4)	23 (52.3)
家族 計	21 (47.7)	20 (45.5)	11 (25.0)	8 (18.2)	1 (2.3)	11 (25.0)	8 (18.2)	44 (100.0)

以上、札幌市とむかわ町における地域住民とアイヌの人々との交流の全体的な状況を見てきた。次節以降では、56.2%が「交流あり」と回答しているむかわ町の住民について、次に掲げる6つの視点からアイヌの人々との交流状況をさらに探る。その6つの視点とは、「ジェンダー」「地域への根つき方」「地域における諸活動」「職業生活」「個人としてのアイヌ文化の経験」「市民としてのアイヌ文化への関心」である。札幌市における交流人口は上で確認したようにきわめて少なく、これら6項目についてクロス集計をして得られた数値を見ると、その大小やそれが意味するところを判断することは難しい。したがって、以下においては、むかわ町住民に焦点を当て検討を行う。

第2節 むかわ町における交流

第1項 ジェンダー

それでは、ジェンダーという視点から交流状況を見ていこう。社会において男性と女性がそれぞれ位置づけられている立場の違いは交流にいかなる影響を及ぼしているのだろうか。

まず、交流頻度について見る（表1-3）。「交流あり」の比率を男女別に整理すると、青年層（以下、青年層、壮年層、老年層と単独表記の場合は〈和人〉を指すものとする）では、男性32.5%、女性23.3%、壮年層では、男性55.4%、女性43.8%、老年層では、男性73.5%、女性55.5%となり、3世代すべてにおいて男性優位となっている²⁾。では、こういった内容の交流において男性の優位が顕著なのだろうか（表1-4）。

第一に指摘しなければならないのは、「職場付き合い」「趣味の付き合い」については3世代とも男性の「交流あり」の数値が女性の数値を上回っていることである。とくに、「職場付き合い」の数値は、青年層では男性25.0%、女性10.0%、壮年層では男性40.5%、女性19.1%、老年層では男性28.3%、女性14.8%となっており、男性の数値は女性のほぼ2倍以上に達する。また、男性が女性に増して幅広く交流を行っている場面も認められる。注目されるのは「近所付き合い」である。青年層では男性の数値の方が高く（男性17.5%、女性6.7%）、壮年層と老年層では女性の数値の方が高い（壮年層の男性27.0%、女性28.1%、老年層の男性31.9%、女性35.9%）。女性の数値が高いことは、家事や育児の主な担い手である女性が家事の延長としての近所付き合いの担い手でもあることを示すものといえるが、それでも、壮年層における男女の比率が拮抗している点に注目したい。札幌市のような大都市圏とは異なり近隣の付き合いが日頃より濃密であろうことを斟酌する必要があるとしても、働き盛りの壮年層男性としてこの数値は十分に高いといえるのではないだろうか。アイヌの人々が身近に暮らす地であり、交流にわざわざ「参加する」という形をとらずとも、日々の暮らしに交流が組み込まれ得る環境があることが、男性参加の多さを支えていると推察される。全体として男性優位であるなかで、女性の「交流あり」の比率が男性より高いのは、青年層と壮年層における「子どもを介した付き合い」である。

〈和人〉以外のグループについて見ると、〈配偶者がアイヌの血筋の者〉の壮年層と〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉の青年層においてジェンダー差は見られず、〈本人がアイヌの血筋の者〉の壮年層と老年層および〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉の壮年層と老年層においては、女性よりも男性において交流頻度が高いという結果となっており、男性優位の状況といえる。「職場付き合い」、「近所付き合い」の比率を確認すると、〈配

偶者がアイヌの血筋の者〉の壮年層と〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉の壮年層と老年層においては、男性の数値の方が高いという結果である。

表1-3 アイヌの人々との交流×ジェンダー（アイヌ性別・世代別）

		度数（％）					合計
		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	不明	
和人青年層	男性	9 (22.5)	4 (10.0)	6 (15.0)	21 (52.5)	0 (0.0)	40 (100.0)
	女性	3 (10.0)	4 (13.3)	7 (23.3)	15 (50.0)	1 (3.3)	30 (100.0)
和人壮年層	男性	18 (24.3)	23 (31.1)	12 (16.2)	18 (24.3)	3 (4.1)	74 (100.0)
	女性	12 (13.5)	27 (30.3)	16 (18.0)	31 (34.8)	3 (3.4)	89 (100.0)
和人老年層	男性	41 (36.3)	42 (37.2)	15 (13.3)	12 (10.6)	3 (2.7)	113 (100.0)
	女性	28 (21.9)	43 (33.6)	29 (22.7)	20 (15.6)	8 (6.3)	128 (100.0)
	不明	0 (0.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
和人 計		111 (23.3)	145 (30.5)	85 (17.9)	117 (24.6)	18 (3.8)	476 (100.0)
本人（壮）	男性	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	女性	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人（老）	男性	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	女性	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人 計		2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	男性	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	女性	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
配偶者 計		2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（青）	男性	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	女性	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
家族（壮）	男性	3 (30.0)	4 (40.0)	1 (10.0)	1 (10.0)	1 (10.0)	10 (100.0)
	女性	3 (33.3)	3 (33.3)	2 (22.2)	1 (11.1)	0 (0.0)	9 (100.0)
家族（老）	男性	8 (50.0)	6 (37.5)	0 (0.0)	1 (6.3)	1 (6.3)	16 (100.0)
	女性	3 (33.3)	3 (33.3)	2 (22.2)	0 (0.0)	1 (11.1)	9 (100.0)
家族 計		21 (42.0)	18 (36.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	50 (100.0)
合計		136 (25.6)	163 (30.6)	91 (17.1)	121 (22.7)	21 (3.9)	532 (100.0)

表1-4 アイヌの人々との交流内容×ジェンダー（アイヌ性別・世代別）

		度数（％）							合計
		近所 付き合い	職場 付き合い	趣味の 付き合い	子どもを 介した 付き合い	インター ネット	学生時代 からの 付き合い	その他	
和人青年層	男性	7 (17.5)	10 (25.0)	3 (7.5)	4 (10.0)	0 (0.0)	3 (7.5)	1 (2.5)	40 (100.0)
	女性	2 (6.7)	3 (10.0)	2 (6.7)	4 (13.3)	0 (0.0)	4 (13.3)	1 (3.3)	30 (100.0)
和人壮年層	男性	20 (27.0)	30 (40.5)	6 (8.1)	8 (10.8)	0 (0.0)	22 (29.7)	7 (9.5)	74 (100.0)
	女性	25 (28.1)	17 (19.1)	0 (0.0)	16 (18.0)	0 (0.0)	7 (7.9)	8 (9.0)	89 (100.0)
和人老年層	男性	36 (31.9)	32 (28.3)	20 (17.7)	7 (6.2)	0 (0.0)	19 (16.8)	17 (15.0)	113 (100.0)
	女性	46 (35.9)	19 (14.8)	10 (7.8)	4 (3.1)	0 (0.0)	13 (10.2)	12 (9.4)	128 (100.0)
	不明	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
和人 計		137 (28.8)	111 (23.3)	42 (8.8)	43 (9.0)	0 (0.0)	68 (14.3)	46 (9.7)	476 (100.0)
本人（壮）	男性	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	女性	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人（老）	男性	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	女性	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人 計		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	男性	1 (100.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	女性	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
配偶者 計		1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
家族（青）	男性	1 (33.3)	2 (66.7)	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
	女性	2 (66.7)	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
家族（壮）	男性	5 (50.0)	7 (70.0)	1 (10.0)	4 (40.0)	0 (0.0)	5 (50.0)	0 (0.0)	10 (100.0)
	女性	2 (22.2)	2 (22.2)	1 (11.1)	1 (11.1)	0 (0.0)	2 (22.2)	1 (11.1)	9 (100.0)
家族（老）	男性	9 (56.3)	6 (37.5)	4 (25.0)	3 (18.8)	1 (6.3)	1 (6.3)	5 (31.3)	16 (100.0)
	女性	2 (22.2)	1 (11.1)	3 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (11.1)	2 (22.2)	9 (100.0)
家族 計		21 (42.0)	20 (40.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	1 (2.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	50 (100.0)
合計		159 (29.9)	132 (24.8)	53 (10.0)	51 (9.6)	1 (0.2)	79 (14.8)	57 (10.7)	532 (100.0)

注）それぞれについて「あり」と回答した数と％を記載

第2項 地域への根つき方

次に、交流状況を地域への根つき方という視点から見ていく。その際、地域への根つき方の指標として、本人の来住時期、定住志向の2つに着目する。その地に長く暮らしている者において「交流あり」の比率がより高いといえるのだろうか。また、「ずっと住みたい」と回答する者において、「交流あり」の比率は高いのだろうか。これらの問いはアイヌ集住地であるむかわ町の住民の交流に深く関わるものといえる。

(1) 来住時期

表1－5は本人の来住時期、つまり、地元生まれ・育ちかどうかを示したものである。生まれてからずっと居住する者において「交流あり」の数値は明らかに高い。各世代の「交流あり」を来住時期別に見ると、青年層では、「生まれてからずっと」32.4%、「明治～平成に来住」24.2%、壮年層では、「生まれてからずっと」67.1%、「明治～平成に来住」35.5%、老年層では、「生まれてからずっと」68.7%、「明治～平成に来住」61.4%である。とくに壮年層では、来住時期による交流頻度の差は大きく、約30ポイントの開きがある。来住先がアイヌ集住地である場合は、その地で暮らす時間の長さがアイヌの人々とのより多くの交流をもたらしていると見ることができる。

では、来住時期によって交流内容は異なるのだろうか。地元生まれ・育ちの者の「交流あり」の比率がそうではない者より高い項目が明らかに多い。3世代すべてに関して該当するのは、「近所付き合い」「学生時代からの付き合い」である(表1－6)。「交流あり」の数値をあげるならば、「近所付き合い」については、青年層では、「生まれてからずっと」16.2%、「明治～平成に来住」9.1%、壮年層では、「生まれてからずっと」42.9%、「明治～平成に来住」16.1%、老年層では、「生まれてからずっと」37.5%、「明治～平成に来住」32.4%である。また、「学生時代からの付き合い」については、青年層では、「生まれてからずっと」16.2%、「明治～平成に来住」3.0%、壮年層では、「生まれてからずっと」34.3%、「明治～平成に来住」5.4%、老年層では、「生まれてからずっと」20.8%、「明治～平成に来住」8.3%である。隣近所との付き合いや、地元の小・中学校時代に始まるつながりは、土地に根づいているからこそ可能な交流であることが示されたといえる。また、3世代中2世代において地元生まれ・育ちの者の「交流あり」の比率が高いものとして、「職場付き合い」「趣味の付き合い」「子どもを介した付き合い」がある。これらの結果が示すように、地元生まれ育った者の交流内容はそうでない者に比して圧倒的に多様に展開されている。

〈和人〉以外のグループの場合は、〈和人〉とは異なり、生まれてからずっと居住している者において「交流あり」の比率が確実に高く、交流内容が確実に多彩であるということはない。すでに身内や親しい関係者として身近にアイヌの人々がいる状況であれば、交流が来住時期によって左右されることは少ないのは当然といえるだろう。

表1-5 アイヌの人々との交流×来住時期（アイヌ性別・世代別）

		度数（％）					合計
		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	不明	
和人青年層	誕生以来	8 (21.6)	4 (10.8)	8 (21.6)	17 (45.9)	0 (0.0)	37 (100.0)
	明治～平成	4 (12.1)	4 (12.1)	5 (15.2)	19 (57.6)	1 (3.0)	33 (100.0)
和人壮年層	誕生以来	21 (30.0)	26 (37.1)	11 (15.7)	9 (12.9)	3 (4.3)	70 (100.0)
	明治～平成	9 (9.7)	24 (25.8)	17 (18.3)	40 (43.0)	3 (3.2)	93 (100.0)
和人老年層	誕生以来	32 (33.3)	34 (35.4)	18 (18.8)	8 (8.3)	4 (4.2)	96 (100.0)
	明治～平成	37 (25.5)	52 (35.9)	26 (17.9)	23 (15.9)	7 (4.8)	145 (100.0)
	不明	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
和人 計		111 (23.3)	145 (30.5)	85 (17.9)	117 (24.6)	18 (3.8)	476 (100.0)
本人（壮）	誕生以来	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	明治～平成	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人（老）	誕生以来	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	明治～平成	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人 計		2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	誕生以来	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	明治～平成	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
配偶者 計		2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（青）	誕生以来	3 (75.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
	明治～平成	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（壮）	誕生以来	3 (37.5)	3 (37.5)	1 (12.5)	0 (0.0)	1 (12.5)	8 (100.0)
	明治～平成	3 (27.3)	4 (36.4)	2 (18.2)	2 (18.2)	0 (0.0)	11 (100.0)
家族（老）	誕生以来	5 (38.5)	4 (30.8)	1 (7.7)	1 (7.7)	2 (15.4)	13 (100.0)
	明治～平成	6 (50.0)	5 (41.7)	1 (8.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (100.0)
家族 計		21 (42.0)	18 (36.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	50 (100.0)
合計		136 (25.6)	163 (30.6)	91 (17.1)	121 (22.7)	21 (3.9)	532 (100.0)

表1-6 アイヌの人々との交流内容×来住時期（アイヌ性別・世代別）

		度数（％）							合計
		近所 付き合い	職場 付き合い	趣味の 付き合い	子どもを 介した 付き合い	インター ネット	学生時代 からの 付き合い	その他	
和人青年層	誕生以来	6 (16.2)	7 (18.9)	3 (8.1)	4 (10.8)	0 (0.0)	6 (16.2)	1 (2.7)	37 (100.0)
	明治～平成	3 (9.1)	6 (18.2)	2 (6.1)	4 (12.1)	0 (0.0)	1 (3.0)	1 (3.0)	33 (100.0)
和人壮年層	誕生以来	30 (42.9)	27 (38.6)	6 (8.6)	14 (20.0)	0 (0.0)	24 (34.3)	6 (8.6)	70 (100.0)
	明治～平成	15 (16.1)	20 (21.5)	0 (0.0)	10 (10.8)	0 (0.0)	5 (5.4)	9 (9.7)	93 (100.0)
和人老年層	誕生以来	36 (37.5)	20 (20.8)	12 (12.5)	4 (4.2)	0 (0.0)	20 (20.8)	11 (11.5)	96 (100.0)
	明治～平成	47 (32.4)	31 (21.4)	19 (13.1)	6 (4.1)	0 (0.0)	12 (8.3)	18 (12.4)	145 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
和人 計		137 (28.8)	111 (23.3)	42 (8.8)	43 (9.0)	0 (0.0)	68 (14.3)	46 (9.7)	476 (100.0)
本人（壮）	誕生以来	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	明治～平成	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
本人（老）	誕生以来	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	明治～平成	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人 計		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	誕生以来	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	明治～平成	1 (100.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
配偶者 計		1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
家族（青）	誕生以来	1 (25.0)	2 (50.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
	明治～平成	2 (100.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（壮）	誕生以来	3 (37.5)	3 (37.5)	1 (12.5)	3 (37.5)	0 (0.0)	4 (50.0)	1 (12.5)	8 (100.0)
	明治～平成	4 (36.4)	6 (54.5)	1 (9.1)	2 (18.2)	0 (0.0)	3 (27.3)	0 (0.0)	11 (100.0)
家族（老）	誕生以来	6 (46.2)	4 (30.8)	3 (23.1)	1 (7.7)	0 (0.0)	1 (7.7)	3 (23.1)	13 (100.0)
	明治～平成	5 (41.7)	3 (25.0)	4 (33.3)	2 (16.7)	1 (8.3)	1 (8.3)	4 (33.3)	12 (100.0)
家族計		21 (42.0)	20 (40.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	1 (2.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	50 (100.0)
合計		159 (29.9)	132 (24.8)	53 (10.0)	51 (9.6)	1 (0.2)	79 (14.8)	57 (10.7)	532 (100.0)

注）それぞれについて「あり」と回答した数と％を記載

（２）定住志向

次いで、定住志向に目を移そう。「交流あり」の数値を定住志向別に並べると、青年層では、「ずっと住みたい」29.6%、「移りたい」42.8%、「移る予定あり」10.0%、「わからない」23.6%、壮年層では、「ずっと住みたい」57.3%、「移りたい」53.1%、「移る予定あり」35.3%、「わからない」28.0%、老年層では、「ずっと住みたい」69.8%、「移りたい」55.0%、「移る予定あり」50.0%、「わからない」41.7%となる（表1－7）。壮年層と老年層においては定住志向を持つ者において「交流あり」の比率が最も高い。この時、青年層では「移りたい」と回答する者の比率が最も高い³⁾。その理由としては、先に見たように、青年層の交流の中心は「近所付き合い」ではなく「職場付き合い」であり、彼らにとっての定住志向とはおそらく地元好きという程度の意味であって、地域での多様な交流を多く経験しているわけではないということではないだろうか。逆に言えば、年長世代における定住志向とは地域に根ざすことを志向することであり、ゆえに、アイヌの人々との交流を含め地域の人々との交流への積極的な姿勢があると考えられる。さらに、3世代に共通する点を探すと、「ずっと住みたい」と「移る予定あり」を比べたときに、「ずっと住みたい」と回答する者において、「移る予定あり」と回答する者よりも、「交流あり」の数値が高いということはいえる。「移る予定あり」が、転居が具体的に計画されているという意味だとするなら、アイヌの人々との交流を含めた周囲の人々との交流規模が縮小される途上にあるとも考えられる。それに比べると「移りたい」という回答には願望も含まれていると考えられるため、実際の交流頻度が必ずしも低調ではない場合もあると見ることができる。

では、交流内容を見ていこう。上で示したように、各世代の交流内容においては、「近所付き合い」と「職場付き合い」が主要な位置を占めているが、この2つについて「交流あり」の数値の高い1位と2位を見ると、3世代とも、「ずっと住みたい」と回答する者と「移りたい」と回答する者のいずれかとなる（表1－8）。「近所付き合い」については、青年層では、「ずっと住みたい」18.5%、「移りたい」21.4%、壮年層では、「ずっと住みたい」34.1%、「移りたい」28.1%、老年層では、「ずっと住みたい」37.9%、「移りたい」40.0%である。また、「職場付き合い」については、青年層では、「ずっと住みたい」22.2%、「移りたい」28.6%、壮年層では、「ずっと住みたい」36.6%、「移りたい」28.1%、老年層では、「ずっと住みたい」22.2%、「移りたい」20.0%である。この他にも、「ずっと住みたい」あるいは「移りたい」と回答するの方がより多くの交流を行っている項目が少なからずあり、全体として見ると、定住志向を持つ者と他所へ移りたいと考える者の違いはそれほど明確ではない。しかし、「移る予定あり」、すなわちその地を去ることが確実な者における交流内容の相対的な低調さは明らかである。「移りたい」という願望はあるとしても、そこで暮らす限りは地域住民としての多様な交流関係は維持される（されざるを得ない）状況にあることがわかる。交流が選択的、選好的におこなわれ得るものであるかどうかの違いが大きく関わっていると思われる。

〈和人〉以外のグループについて見ると、定住志向が交流のあり方に一定の影響を与えている様子は認められない。「移る予定あり」「わからない」と回答する者においても交流頻度がとくに低くなることはなく、交流の種類が格段に減るわけでもない。来住時期を含めて「地域への根付き方」によって交流が影響されるのは主に〈和人〉の方といえる。

表1-7 アイヌの人々との交流×定住志向（アイヌ性別・世代別）

		度数（％）					合計
		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	不明	
和人青年層	ずっと住みたい	4 (14.8)	4 (14.8)	8 (29.6)	10 (37.0)	1 (3.7)	27 (100.0)
	移りたい	5 (35.7)	1 (7.1)	3 (21.4)	5 (35.7)	0 (0.0)	14 (100.0)
	移る予定あり	0 (0.0)	1 (10.0)	2 (20.0)	7 (70.0)	0 (0.0)	10 (100.0)
	わからない	2 (11.8)	2 (11.8)	0 (0.0)	13 (76.5)	0 (0.0)	17 (100.0)
	不明	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
和人壮年層	ずっと住みたい	23 (28.0)	24 (29.3)	18 (22.0)	14 (17.1)	3 (3.7)	82 (100.0)
	移りたい	4 (12.5)	13 (40.6)	4 (12.5)	11 (34.4)	0 (0.0)	32 (100.0)
	移る予定あり	0 (0.0)	6 (35.3)	0 (0.0)	11 (64.7)	0 (0.0)	17 (100.0)
	わからない	3 (12.0)	4 (16.0)	6 (24.0)	12 (48.0)	0 (0.0)	25 (100.0)
	不明	0 (0.0)	3 (42.9)	0 (0.0)	1 (14.3)	3 (42.9)	7 (100.0)
和人老年層	ずっと住みたい	57 (31.3)	70 (38.5)	35 (19.2)	12 (6.6)	8 (4.4)	182 (100.0)
	移りたい	3 (15.0)	8 (40.0)	2 (10.0)	7 (35.0)	0 (0.0)	20 (100.0)
	移る予定あり	1 (16.7)	2 (33.3)	1 (16.7)	2 (33.3)	0 (0.0)	6 (100.0)
	わからない	6 (25.0)	4 (16.7)	5 (20.8)	8 (33.3)	1 (4.2)	24 (100.0)
	不明	2 (18.2)	3 (27.3)	1 (9.1)	3 (27.3)	2 (18.2)	11 (100.0)
和人 計		111 (23.3)	145 (30.5)	85 (17.9)	117 (24.6)	18 (3.8)	476 (100.0)
本人（壮）	ずっと住みたい	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
本人（老）	ずっと住みたい	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人 計		2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	移りたい	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（青）	ずっと住みたい	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	わからない	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
家族（壮）	ずっと住みたい	2 (18.2)	4 (36.4)	2 (8.2)	2 (18.2)	1 (9.1)	11 (100.0)
	移りたい	1 (33.3)	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	移る予定	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	わからない	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（老）	ずっと住みたい	7 (38.9)	8 (44.4)	0 (0.0)	1 (5.6)	2 (11.1)	18 (100.0)
	移りたい	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	移る予定	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	わからない	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	不明	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族 計		21 (42.0)	18 (36.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	50 (100.0)
合計		136 (25.6)	163 (30.6)	91 (17.1)	121 (22.7)	21 (3.9)	532 (100.0)

表1-8 アイヌの人々との交流の内容×定住志向（アイヌ性別・世代別）

		度数（％）							合計
		近所 付き合い	職場 付き合い	趣味の 付き合い	子どもを 介した 付き合い	インター ネット	学生時代 からの 付き合い	その他	
和人青年層	ずっと	5 (18.5)	6 (22.2)	0 (0.0)	5 (18.5)	0 (0.0)	2 (7.4)	1 (3.7)	27 (100.0)
	移りたい	3 (21.4)	4 (28.6)	2 (14.3)	1 (7.1)	0 (0.0)	1 (7.1)	1 (7.1)	14 (100.0)
	移る予定	0 (0.0)	1 (10.0)	1 (10.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	10 (100.0)
	わからない	0 (0.0)	1 (5.9)	1 (5.9)	1 (5.9)	0 (0.0)	3 (17.6)	0 (0.0)	17 (100.0)
	不明	1 (12.9)	1 (50.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
和人壮年層	ずっと	28 (34.1)	30 (36.6)	6 (7.3)	14 (17.1)	0 (0.0)	22 (26.8)	9 (11.0)	82 (100.0)
	移りたい	9 (28.1)	9 (28.1)	0 (0.0)	6 (18.8)	0 (0.0)	5 (15.6)	3 (9.4)	32 (100.0)
	移る予定	2 (11.8)	2 (11.8)	0 (0.0)	3 (17.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (11.8)	17 (100.0)
	わからない	6 (24.0)	2 (8.0)	0 (0.0)	1 (4.0)	0 (0.0)	1 (4.0)	0 (0.0)	25 (100.0)
	不明	0 (0.0)	4 (57.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	1 (14.3)	7 (100.0)

和人老年層	ずっと	69 (37.9)	40 (22.0)	31 (17.0)	9 (4.9)	0 (0.0)	25 (13.7)	24 (13.2)	182 (100.0)
	移りたい	8 (40.0)	4 (20.0)	0 (0.0)	1 (5.0)	0 (0.0)	3 (15.0)	1 (5.0)	20 (100.0)
	移る予定	2 (33.3)	1 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (16.7)	0 (0.0)	6 (100.0)
	わからない	3 (12.5)	3 (12.5)	0 (0.0)	1 (4.2)	0 (0.0)	2 (8.3)	3 (12.5)	24 (100.0)
	不明	1 (9.1)	3 (27.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)	1 (9.1)	11 (100.0)
和人 計		137 (28.8)	111 (23.3)	42 (8.8)	43 (9.0)	0 (0.0)	68 (14.3)	46 (9.7)	476 (100.0)
本人 (壮)	ずっと	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
本人 (老)	ずっと	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人 計		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
配偶者 (壮)	移りたい	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
家族 (青)	ずっと	1 (33.3)	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	わからない	2 (66.7)	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (66.7)	0 (0.0)	3 (100.0)
家族 (壮)	ずっと	2 (18.2)	5 (45.5)	1 (9.1)	3 (27.3)	0 (0.0)	3 (27.3)	0 (0.0)	11 (100.0)
	移りたい	2 (66.7)	3 (100.0)	1 (33.3)	2 (66.7)	0 (0.0)	2 (66.7)	0 (0.0)	3 (100.0)
	移る予定	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	わからない	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (66.7)	0 (0.0)	3 (100.0)
	不明	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族 (老)	ずっと	9 (50.0)	4 (22.2)	4 (22.2)	3 (16.7)	1 (5.6)	2 (11.1)	7 (38.9)	18 (100.0)
	移りたい	0 (0.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	移る予定	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	わからない	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	不明	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族 計		21 (42.0)	20 (40.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	1 (2.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	50 (100.0)
合計		159 (29.9)	132 (24.8)	53 (10.0)	51 (9.6)	1 (0.2)	79 (14.8)	57 (10.7)	532 (100.0)

注) それぞれについて「あり」と回答した数と％を記載

第3項 地域における諸活動

ここでは、アイヌの人々との交流を、地域における諸活動、具体的には近所付き合いと自治会活動という2つの視点から確認する。日常的に近隣との付き合いが濃密であれば、アイヌの人々との交流もその一環として増えるのだろうか。また、自治会活動への参加は、地域住民としてのアイヌの人々と知り合う機会を増やし、そこから交流が生まれることにつながるのだろうか。

(1) 近所付き合い

表1-9を見ると、近所付き合いを密に行っている者においては、アイヌの人々との交流もより多く行われていることがはっきりと認められる。「交流あり」の数値が高い順にあげていくと、青年層では、「互いの家を行き来する」100.0%、「会った際に世間話をする」37.5%、「会えば挨拶する」23.1%、「近所付き合いはない」0.0%、壮年層では、「互いの家を行き来する」66.7%、「会った際に世間話をする」59.3%、「会えば挨拶する」42.9%、「近所付き合いはない」11.1%、老年層では、「互いの家を行き来する」77.4%、「会った際に世間話をする」68.7%、「会えば挨拶する」56.5%、「近所付き合いはない」50.0%であり、3世代すべてにおいてこのことがいえる。

続いて、交流内容を見よう。近所付き合いの程度によって交流の内容は異なるのだろうか(表1-10)。たとえば、アイヌの人々との「近所付き合い」に関しては、青年層では、「近所付き合いはない」0.0%、「会えば挨拶する」2.6%、「会った際に世間話をする」29.2%、「互いの家

を行き来する」50.0%、壮年層では、「近所付き合いはない」0.0%、「会えば挨拶する」13.0%、「会った際に世間話をする」42.4%、「互いの家を行き来する」66.7%、老年層では、「近所付き合いはない」33.3%、「会えば挨拶する」25.9%、「会った際に世間話をする」39.1%、「互いの家を行き来する」45.2%であり、3世代すべてにおいて、「互いの家を行き来する」ほどの付き合いをする者において「交流あり」の数値が最も高い。そして、近所付き合いが深まるにしたがって「交流あり」の数値が概ね順当に上昇する。それ以外の交流についても、「互いの家を行き来する」者において「交流あり」の数値が他3者より高い傾向が見られる。ただし、〈和人〉以外のグループについては、より親密な近所付き合いが行われているところにより多彩で活発な交流が成立しているとはいえないという結果であり、身内の縁や個人的なきっかけを得て交流が行われていることがわかる。

表1-9 アイヌの人々との交流×近所付き合い（アイヌ性別・世代別）

		度数(%)					合計
		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	不明	
和人青年層	付き合い無	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (100.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	会えば挨拶	5 (12.8)	4 (10.3)	9 (23.1)	20 (51.3)	1 (2.6)	39 (100.0)
	世間話	6 (25.0)	3 (12.5)	4 (16.7)	11 (45.8)	0 (0.0)	24 (100.0)
	家を行き来	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
和人壮年層	付き合い無	0 (0.0)	1 (11.1)	2 (22.2)	6 (66.7)	0 (0.0)	9 (100.0)
	会えば挨拶	10 (13.0)	23 (29.9)	12 (15.6)	30 (39.0)	2 (2.6)	77 (100.0)
	世間話	14 (23.7)	21 (35.6)	11 (18.6)	12 (20.3)	1 (1.7)	59 (100.0)
	家を行き来	6 (40.0)	4 (26.7)	3 (20.0)	1 (6.7)	1 (6.7)	15 (100.0)
	不明	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (66.7)	3 (100.0)
和人老年層	付き合い無	0 (0.0)	3 (50.0)	1 (16.7)	2 (33.3)	0 (0.0)	6 (100.0)
	会えば挨拶	14 (16.5)	34 (40.0)	19 (22.4)	15 (17.6)	3 (3.5)	85 (100.0)
	世間話	39 (33.9)	40 (34.8)	19 (16.5)	14 (12.2)	3 (2.6)	115 (100.0)
	家を行き来	15 (48.4)	9 (29.0)	4 (12.9)	1 (3.2)	2 (6.5)	31 (100.0)
	不明	1 (16.7)	1 (16.7)	1 (16.7)	0 (0.0)	3 (50.0)	6 (100.0)
和人 計		111 (23.3)	145 (30.5)	85 (17.9)	117 (24.6)	18 (3.8)	476 (100.0)
本人 (壮)	会えば挨拶	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
本人 (老)	世間話	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人 計		2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
配偶者 (壮)	会えば挨拶	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族 (青)	会えば挨拶	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	世間話	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	家を行き来	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族 (壮)	付き合い無	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	会えば挨拶	1 (20.0)	2 (40.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	世間話	3 (33.3)	3 (33.3)	1 (11.1)	1 (11.1)	1 (11.1)	9 (100.0)
	家を行き来	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族 (老)	会えば挨拶	0 (0.0)	3 (60.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	5 (100.0)
	世間話	9 (56.3)	5 (31.3)	1 (6.3)	1 (6.3)	0 (0.0)	16 (100.0)
	家を行き来	2 (50.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	4 (100.0)
家族 計		21 (42.0)	18 (36.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	50 (100.0)
合計		136 (25.6)	163 (30.6)	91 (17.1)	121 (22.7)	21 (3.9)	532 (100.0)

表1-10 アイヌの人々との交流の内容×近所付き合い（アイヌ性別・世代別）

		度数（％）							合計
		近所 付き合い	職場 付き合い	趣味の 付き合い	子どもを 介した 付き合い	インター ネット	学生時代 からの 付き合い	その他	
和人青年層	付き合い無	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	会えば挨拶	1 (2.6)	6 (15.4)	3 (7.7)	1 (2.6)	0 (0.0)	3 (7.7)	0 (0.0)	39 (100.0)
	世間話	7 (29.2)	6 (25.0)	1 (4.2)	5 (20.8)	0 (0.0)	3 (12.5)	2 (8.3)	24 (100.0)
	家を行き来	1 (50.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
和人壮年層	付き合い無	0 (0.0)	2 (22.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (11.1)	9 (100.0)
	会えば挨拶	10 (13.0)	17 (22.1)	0 (0.0)	7 (9.1)	0 (0.0)	9 (11.7)	4 (5.2)	77 (100.0)
	世間話	25 (42.4)	22 (37.3)	4 (6.8)	13 (22.0)	0 (0.0)	14 (23.7)	8 (13.6)	59 (100.0)
	家を行き来	10 (66.7)	6 (40.0)	2 (13.3)	4 (26.7)	0 (0.0)	5 (33.3)	1 (6.7)	15 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	1 (33.3)	3 (100.0)
和人老年層	付き合い無	2 (33.3)	1 (16.7)	0 (0.0)	1 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (16.7)	6 (100.0)
	会えば挨拶	22 (25.9)	18 (21.2)	10 (11.8)	3 (3.5)	0 (0.0)	11 (12.9)	6 (7.1)	85 (100.0)
	世間話	45 (39.1)	25 (21.7)	13 (11.3)	5 (4.3)	0 (0.0)	15 (13.0)	19 (16.5)	115 (100.0)
	家を行き来	14 (45.2)	6 (19.4)	8 (25.8)	2 (6.5)	0 (0.0)	4 (12.9)	3 (9.7)	31 (100.0)
	不明	0 (0.0)	1 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (33.3)	0 (0.0)	6 (100.0)
和人 計		137 (28.8)	111 (23.3)	42 (8.8)	43 (9.0)	0 (0.0)	68 (14.3)	46 (9.7)	476 (100.0)
本人（壮）	会えば挨拶	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
本人（老）	世間話	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人 計		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	会えば挨拶	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
家族（青）	会えば挨拶	0 (0.0)	1 (33.3)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
	世間話	1 (100.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	家を行き来	2 (100.0)	2 (100.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（壮）	付き合い無	0 (0.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	会えば挨拶	0 (0.0)	1 (20.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (60.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	世間話	5 (55.6)	5 (55.6)	0 (0.0)	4 (44.4)	0 (0.0)	2 (22.2)	1 (11.1)	9 (100.0)
	家を行き来	2 (100.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（老）	会えば挨拶	2 (40.0)	2 (40.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	5 (100.0)
	世間話	9 (56.3)	4 (25.0)	4 (25.0)	3 (18.8)	1 (6.3)	1 (6.3)	5 (31.3)	16 (100.0)
	家を行き来	0 (0.0)	1 (25.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	4 (100.0)
家族計		21 (42.0)	20 (40.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	1 (2.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	50 (100.0)
合計		159 (29.9)	132 (24.8)	53 (10.0)	51 (9.6)	1 (0.2)	79 (14.8)	57 (10.7)	532 (100.0)

注) それぞれについて「あり」と回答した数と％を記載

（2）自治会活動

続けて取り上げるのは自治会活動である。自治会活動は近所付き合いのような偶然的で選好的な付き合いとは異なり、活動内容や活動範囲が定められたなかで、地域への奉仕としておこなわれる性質のものである。表1-11を見ると、3世代とも「積極的に参加している」と回答する者における「交流あり」の比率が最も高くなっている点は共通する。しかし、壮年層・老年層と青年層ではやや異なる傾向が認められる。すなわち、「交流あり」の比率を見ると、青年層では、「積極的に参加している」55.5%、「ある程度参加している」26.1%、「あまり参加していない」17.7%、「まったく参加していない」28.5%、壮年層では、「積極的に参加している」72.8%、「ある程度参加している」52.0%、「あまり参加していない」41.4%、「まったく参加していない」33.4%、老年層では、「積極的に参加している」78.8%、「ある程度参加している」68.0%、

「あまり参加していない」39.0%、「まったく参加していない」41.7%となっており、壮年層と老年層では「積極的に参加している」と「ある程度参加している」が1位と2位を占めている。アイヌ集住地において積極的に自治会活動に参加することは、地域住民であるアイヌの人々と知り合い、交流を育てることに直結するものと考えられる。このとき、青年層においては「まったく参加していない」と回答する者の「交流あり」の比率が高めであることについては、地域活動が主に年長世代によって担われており、青年層にとって自治会という場の比重が小さいことから説明されよう⁴⁾。

次に交流内容であるが、「近所付き合い」「職場付き合い」「趣味の付き合い」「子どもを介した付き合い」「学生時代からの付き合い」の計5項目について、「積極的に参加している」者において「交流あり」と回答する比率が最も高い(表1-12)。「交流あり」の数値が、積極度が高くなるのに応じて上昇している項目も少なくない。自治会活動への参加状況とアイヌの人々との交流とは密に連動しているといえる。しかしながら、こうした規則性は〈和人〉以外のグループの人々については当てはまらない。

表1-11 アイヌの人々との交流×自治会活動への参加(アイヌ性別・世代別)

		度数(%)					合計
		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	不明	
和人青年層	積極的	4 (44.4)	1 (11.1)	2 (22.2)	2 (22.2)	0 (0.0)	9 (100.0)
	ある程度	4 (17.4)	2 (8.7)	5 (21.7)	12 (52.2)	0 (0.0)	23 (100.0)
	あまりせず	2 (11.8)	1 (5.9)	4 (23.5)	10 (58.8)	0 (0.0)	17 (100.0)
	参加せず	2 (9.5)	4 (19.0)	2 (9.5)	12 (57.1)	1 (4.8)	21 (100.0)
和人壮年層	積極的	10 (45.5)	6 (27.3)	3 (13.6)	2 (9.1)	1 (4.5)	22 (100.0)
	ある程度	16 (20.8)	24 (31.2)	12 (15.6)	24 (31.2)	1 (1.3)	77 (100.0)
	あまりせず	3 (7.3)	14 (34.1)	9 (22.0)	14 (34.1)	1 (2.4)	41 (100.0)
	参加せず	1 (4.8)	6 (28.6)	4 (19.0)	9 (42.9)	1 (4.8)	21 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)	2 (100.0)
和人老年層	積極的	33 (50.0)	19 (28.8)	8 (12.1)	4 (6.1)	2 (3.0)	66 (100.0)
	ある程度	32 (26.2)	51 (41.8)	24 (19.7)	10 (8.2)	5 (4.1)	122 (100.0)
	あまりせず	2 (4.9)	14 (34.1)	10 (24.4)	13 (31.7)	2 (4.9)	41 (100.0)
	参加せず	2 (16.7)	3 (25.0)	2 (16.7)	5 (41.7)	0 (0.0)	12 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)	2 (100.0)
和人 計		111 (23.3)	145 (30.5)	85 (17.9)	117 (24.6)	18 (3.8)	476 (100.0)
本人(壮)	あまりせず	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	参加せず	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人(老)	ある程度	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	参加せず	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人 計		2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
配偶者(壮)	積極的	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	ある程度	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
配偶者 計		2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族(青)	積極的	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	ある程度	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	あまりせず	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族(壮)	積極的	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	ある程度	3 (30.0)	5 (50.0)	0 (0.0)	1 (10.0)	1 (10.0)	10 (100.0)
	あまりせず	1 (20.0)	1 (20.0)	2 (40.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	参加せず	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族(老)	積極的	4 (57.1)	1 (14.3)	1 (14.3)	0 (0.0)	1 (14.3)	7 (100.0)
	ある程度	6 (37.5)	7 (43.8)	1 (6.3)	1 (6.3)	1 (6.3)	16 (100.0)
	あまりせず	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族 計		21 (42.0)	18 (36.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	50 (100.0)
合計		136 (25.6)	163 (30.6)	91 (17.1)	121 (22.7)	21 (3.9)	532 (100.0)

表1-12 アイヌの人々との交流の内容×自治会活動への参加（アイヌ性別・世代別）

		度数（％）							合計
		近所 付き合い	職場 付き合い	趣味の 付き合い	子どもを 介した 付き合い	インター ネット	学生時代 からの 付き合い	その他	
和人青年層	積極的	4 (44.4)	3 (33.3)	3 (33.3)	5 (55.6)	0 (0.0)	3 (33.3)	2 (22.2)	9 (100.0)
	ある程度	2 (8.7)	5 (21.7)	1 (4.3)	2 (8.7)	0 (0.0)	1 (4.3)	0 (0.0)	23 (100.0)
	あまりせず	1 (5.9)	2 (11.8)	1 (5.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	17 (100.0)
	参加せず	2 (9.5)	3 (14.3)	0 (0.0)	1 (4.8)	0 (0.0)	3 (14.3)	0 (0.0)	21 (100.0)
和人壮年層	積極的	11 (50.0)	8 (36.4)	4 (18.2)	6 (27.3)	0 (0.0)	9 (40.9)	3 (13.6)	22 (100.0)
	ある程度	26 (33.8)	25 (32.5)	2 (2.6)	13 (16.9)	0 (0.0)	11 (14.3)	5 (6.5)	77 (100.0)
	あまりせず	8 (19.5)	6 (14.6)	0 (0.0)	5 (12.2)	0 (0.0)	7 (17.1)	6 (14.6)	41 (100.0)
	参加せず	0 (0.0)	8 (38.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (9.5)	1 (4.8)	21 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
和人老年層	積極的	30 (45.5)	15 (22.7)	12 (18.2)	4 (6.1)	0 (0.0)	12 (18.2)	10 (15.2)	66 (100.0)
	ある程度	45 (36.9)	25 (20.5)	16 (13.1)	7 (5.7)	0 (0.0)	16 (13.1)	15 (12.3)	122 (100.0)
	あまりせず	5 (12.2)	9 (22.0)	3 (7.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (4.9)	4 (9.8)	41 (100.0)
	参加せず	3 (25.0)	2 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (16.7)	0 (0.0)	12 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
和人 計		137 (28.8)	111 (23.3)	42 (8.8)	43 (9.0)	0 (0.0)	68 (14.3)	46 (9.7)	476 (100.0)
本人（壮）	あまりせず	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	参加せず	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人（老）	ある程度	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	参加せず	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人 計		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	積極的	1 (100.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	ある程度	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
配偶者 計		1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
家族（青）	積極的	2 (100.0)	2 (100.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	ある程度	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	あまりせず	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（壮）	積極的	2 (100.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	ある程度	3 (30.0)	6 (60.0)	2 (20.0)	2 (20.0)	0 (0.0)	6 (60.0)	0 (0.0)	10 (100.0)
	あまりせず	2 (40.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	5 (100.0)
	参加せず	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（老）	積極的	4 (57.1)	5 (71.4)	2 (28.6)	2 (28.6)	1 (14.3)	1 (14.3)	3 (42.9)	7 (100.0)
	ある程度	6 (37.5)	2 (12.5)	5 (31.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (6.3)	4 (25.0)	16 (100.0)
	あまりせず	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族計		21 (42.0)	20 (40.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	1 (2.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	50 (100.0)
合計		159 (29.9)	132 (24.8)	53 (10.0)	51 (9.6)	1 (0.2)	79 (14.8)	57 (10.7)	532 (100.0)

注）それぞれについて「あり」と回答した数と％を記載

第4項 職業生活

本節では、職業によって交流状況がどのように異なるのかを見ていく。職場は、アイヌの人々と知り合い、共に働くことで交流が生まれ得る環境の一つである。いかなる職業においてアイヌの人々との交流が盛んに行われているのだろうか。

まず、交流頻度を見る。むかわ町の回答者の職業構成上、札幌市との一番の違いは農林水産的職業従事者の存在（札幌市では農林水産的職業従事者はゼロである）であり、「交流あり」と回答される職業の種類が札幌市よりも多い（表1-13）。「交流あり」の比率が高い職業を探ると、青年層では、「保安的」100.0%、「農林水産的」66.7%、「販売的」50.0%、「サービ

25.0%、「事務的」20.0%、「専門・技術的」9.1%、壮年層では、「運輸・通信的」75.0%、「技能工」と「管理的」が66.7%、「その他」が57.1%、「農林水産的」が51.7%、「事務的」50.0%、「専門・技術的」31.6%、「販売的」25.0%、「サービスの」20.0%、老年層では、「技能工」87.5%、「運輸・通信的」80.0%、「販売的」75.0%、「その他」71.5%、「事務的」66.6%、「農林水産的」64.0%、「サービスの」58.3%、「専門・技術的」54.6%、「管理的」40.0%であり、これだけを見ると、ブルーカラー職従事者においてより多くの交流がもたれていると確言できるほどの傾向は見られない。しかし、ここで、交流が「よくある」と回答した者に限って、その数値の高い職業上位3位までを取り出すと、青年層では、「販売的」「農林水産的」「サービスの」、壮年層では、「運輸・通信的」「農林水産的」「技能工」、老年層では、「販売的」「その他」「運輸・通信的」(「その他」を除くと「事務的」)となる。ここから、アイヌの人々との交流がより多いのはブルーカラー職と見ることができるだろう。むかわ町の場合は、「農林水産的」職業の存在が大きい⁵⁾。

では、交流内容を職業別に見るとどのような特徴があるのだろうか。3世代とも、ほぼすべての交流内容に関して「交流あり」の数値が高いのはブルーカラー職である(表1-14)。ホワイトカラー職も「職場付き合い」に加えていろいろな交流場面を経験しているが、ブルーカラー職には及ばない。〈和人〉以外のグループについて職業を見ると、ホワイトカラー職、ブルーカラー職ともにいるが、〈和人〉において見られたような交流状況の違いは見られない。

表1-13 アイヌの人々との交流×職業(アイヌ性別・世代別)

		度数(%)					合計
		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	不明	
和人青年層	事務的	1 (10.0)	1 (10.0)	1 (10.0)	7 (0.0)	0 (0.0)	10 (100.0)
	保安的	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	販売的	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	技能工	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (40.0)	3 (60.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	専門・技術的	0 (0.0)	1 (9.1)	2 (18.2)	7 (63.6)	1 (9.1)	11 (100.0)
	農林水産的	5 (41.7)	3 (25.0)	1 (8.3)	3 (25.0)	0 (0.0)	12 (100.0)
	サービスの	1 (25.0)	0 (0.0)	3 (75.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
	その他	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	不明	4 (16.7)	2 (8.3)	3 (12.5)	15 (62.5)	0 (0.0)	24 (100.0)
和人壮年層	事務的	2 (11.1)	7 (38.9)	1 (5.6)	8 (44.4)	0 (0.0)	18 (100.0)
	保安的	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	販売的	1 (12.5)	1 (12.5)	0 (0.0)	5 (62.5)	1 (12.5)	8 (100.0)
	技能工	1 (16.7)	3 (50.0)	1 (16.7)	1 (16.7)	0 (0.0)	6 (100.0)
	運輸・通信的	2 (50.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
	専門・技術的	0 (0.0)	6 (31.6)	5 (26.3)	7 (36.8)	1 (5.3)	19 (100.0)
	管理的	0 (0.0)	2 (66.7)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
	農林水産的	10 (34.5)	5 (17.2)	8 (27.6)	6 (20.7)	0 (0.0)	29 (100.0)
	サービスの	1 (10.0)	1 (10.0)	3 (30.0)	5 (50.0)	0 (0.0)	10 (100.0)
	その他	0 (0.0)	4 (57.1)	0 (0.0)	2 (28.6)	1 (14.3)	7 (100.0)
	不明	13 (22.8)	20 (35.1)	9 (15.8)	12 (21.1)	3 (5.3)	57 (100.0)
和人老年層	事務的	1 (33.3)	1 (33.3)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
	販売的	2 (50.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	4 (100.0)
	技能工	2 (25.0)	5 (62.5)	0 (0.0)	1 (12.5)	0 (0.0)	8 (100.0)
	運輸・通信的	2 (40.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	専門・技術的	1 (9.1)	5 (45.5)	2 (18.2)	3 (27.3)	0 (0.0)	11 (100.0)
	管理的	1 (20.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	5 (100.0)

	農林水産的	6 (24.0)	10 (40.0)	6 (24.0)	1 (4.0)	2 (8.0)	25 (100.0)
	サービスの	3 (25.0)	4 (33.3)	3 (25.0)	2 (16.7)	0 (0.0)	12 (100.0)
	その他	9 (42.9)	6 (28.6)	4 (19.0)	2 (9.5)	0 (0.0)	21 (100.0)
	不明	42 (28.2)	52 (34.9)	28 (18.8)	20 (13.4)	7 (4.7)	149 (100.0)
和人 計		111 (23.3)	145 (30.5)	85 (17.9)	117 (24.6)	18 (3.8)	476 (100.0)
本人 (社)	技能工	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	その他	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人 (老)	運輸・通信的	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人 計		2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
配偶者 (社)	事務的	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族 (青)	事務的	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	販売的	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	技能工	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	農林水産的	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族 (社)	事務的	0 (0.0)	1 (33.3)	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	販売的	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	技能工	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	運輸・通信的	1 (33.3)	1 (33.3)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
	専門・技術的	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	管理的	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	農林水産的	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	サービスの	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	不明	1 (20.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	5 (100.0)
家族 (老)	事務的	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	技能工	1 (33.3)	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	農林水産的	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	その他	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
	不明	8 (47.1)	6 (35.3)	1 (5.9)	1 (5.9)	1 (5.9)	17 (100.0)
家族 計		21 (42.0)	18 (36.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	50 (100.0)
合計		136 (25.6)	163 (30.6)	91 (17.1)	121 (22.7)	21 (3.9)	532 (100.0)

表1-14 アイヌの人々との交流の内容×職業（アイヌ性別・世代別）

		度数 (%)							合計
		近所 付き合い	職場 付き合い	趣味の 付き合い	子どもを 介した 付き合い	インター ネット	学生時代 からの 付き合い	その他	
和人青年層	事務的	1 (10.0)	1 (10.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (10.0)	1 (100.0)	10 (100.0)
	保安的	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	販売的	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	技能工	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	専門・技術的	0 (0.0)	2 (18.2)	1 (9.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)	0 (0.0)	11 (100.0)
	農林水産的	3 (25.0)	6 (50.0)	2 (16.7)	4 (33.3)	0 (0.0)	1 (8.3)	1 (8.3)	12 (100.0)
	サービスの	1 (25.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
	その他	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	不明	3 (12.5)	2 (8.3)	1 (4.2)	2 (8.3)	0 (0.0)	2 (8.3)	0 (0.0)	24 (100.0)
和人壮年層	事務的	3 (16.3)	5 (27.8)	1 (5.6)	4 (22.2)	0 (0.0)	6 (33.3)	0 (0.0)	18 (100.0)
	保安的	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	販売的	2 (25.0)	2 (25.0)	1 (12.5)	1 (12.5)	0 (0.0)	1 (12.5)	0 (0.0)	8 (100.0)
	技能工	2 (33.3)	3 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (33.3)	1 (16.7)	6 (100.0)
	運輸・通信的	2 (50.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
	専門・技術的	2 (10.5)	3 (15.8)	0 (0.0)	3 (15.8)	0 (0.0)	2 (10.5)	2 (10.5)	19 (100.0)
	管理的	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	3 (100.0)

和人老年層	農林水産的	11 (37.9)	10 (34.5)	2 (6.9)	4 (13.8)	0 (0.0)	6 (20.7)	4 (13.8)	29 (100.0)
	サービスの	0 (0.0)	1 (10.0)	0 (0.0)	1 (10.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	10 (100.0)
	その他	2 (28.6)	5 (71.4)	0 (0.0)	2 (28.6)	0 (0.0)	2 (28.6)	1 (14.3)	7 (100.0)
	不明	21 (36.8)	15 (26.3)	2 (3.5)	9 (15.8)	0 (0.0)	9 (15.8)	6 (10.5)	57 (100.0)
	事務的	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	販売的	1 (25.0)	2 (50.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
	技能工	6 (75.0)	4 (50.0)	1 (12.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (12.5)	0 (0.0)	8 (100.0)
	運輸・通信的	1 (20.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	5 (100.0)
	専門・技術的	3 (27.3)	3 (27.3)	0 (0.0)	2 (18.2)	0 (0.0)	3 (27.3)	1 (9.1)	11 (100.0)
	管理的	0 (0.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (40.0)	5 (100.0)
	農林水産的	9 (36.0)	5 (20.0)	2 (8.0)	2 (8.0)	0 (0.0)	2 (8.0)	3 (12.0)	25 (100.0)
	サービスの	4 (33.3)	4 (33.3)	2 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (16.7)	1 (8.3)	12 (100.0)
	その他	9 (42.9)	5 (23.8)	5 (23.8)	2 (9.5)	0 (0.0)	3 (14.3)	3 (14.3)	21 (100.0)
	不明	48 (32.2)	25 (16.8)	19 (12.8)	4 (2.7)	0 (0.0)	19 (12.8)	16 (10.7)	149 (100.0)
和人 計		137 (28.8)	111 (23.3)	42 (8.8)	43 (9.0)	0 (0.0)	68 (14.3)	46 (9.7)	476 (100.0)
本人 (壮)	技能工	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	その他	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人 (老)	運輸・通信的	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人 計		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
配偶者 (壮)	事務的	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
家族 (青)	事務的	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	販売的	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	技能工	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	農林水産的	1 (100.0)	1 (100.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	不明	1 (100.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族 (壮)	事務的	1 (33.3)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
	販売的	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	技能工	0 (0.0)	2 (100.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	運輸・通信的	1 (33.3)	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
	専門・技術的	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	管理的	1 (100.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	農林水産的	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	サービスの	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	不明	1 (20.0)	3 (60.0)	0 (0.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
家族 (老)	事務的	1 (100.0)	1 (100.0)	1 (100.0)	1 (100.0)	1 (100.0)	1 (100.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	技能工	1 (33.3)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (66.7)	3 (100.0)
	農林水産的	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	その他	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	不明	8 (47.1)	4 (23.5)	4 (23.5)	2 (11.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (23.5)	17 (100.0)
家族 計		21 (42.0)	20 (40.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	1 (2.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	50 (100.0)
合計		159 (29.9)	132 (24.8)	53 (10.0)	51 (9.6)	1 (0.2)	79 (14.8)	57 (10.7)	532 (100.0)

注) それぞれについて「あり」と回答した数と%を記載

第5項 個人としてのアイヌ文化の経験

さて、個人としてのアイヌ文化の経験は交流の仕方によどのような影響をもたらしているのだろうか。アイヌの文化を学んだり体験したりした経験と交流との関係に焦点を当て、「学校でアイヌの歴史を学んだ経験」「学校でアイヌの文化を体験した経験」「アイヌ文化に関する知識」「アイヌ文化に関する体験」「アイヌ文化に関する体験への希望」の5点に関して見ていく。アイヌの歴史や文化についての知識を獲得し、アイヌの文化に触れる体験をし、さらにアイヌの文化に触れることへの積極的な意志を持つことは、アイヌの人々への関心や親密さの表れと見るこ

とができるが、果たしてそれは交流を豊かにすることにつながっているのだろうか。

(1) 学校でアイヌの歴史を学んだ経験

はじめに、学校教育における学びの経験という点から見ていく。学校でアイヌの歴史を学んだ経験の有無と交流状況を整理したものが表1-15である⁶⁾。「交流あり」の数値は、青年層では、「経験あり」34.6%、「経験なし」26.2%、壮年層では、「経験あり」37.7%、「経験なし」57.8%、老年層では、「経験あり」73.9%、「経験なし」62.9%であり、青年層と老年層においては、経験を持つ者において「交流あり」の数値が高くなっている。壮年層においては、経験を持つことがより多くの交流をもたらすことにはなっていない。その理由を解明するためには他の条件とも関わらせてさらに探っていく必要があるだろう。

続いて、学んだ経験の有無によって交流の内容に違いがあるのかを確認するならば、「経験あり」と回答する者において「交流あり」の数値がより高い項目が相対的に多い(表1-16)。「職場付き合い」と「趣味の付き合い」については、3世代とも、「経験あり」の者において「交流あり」の数値が最も高くなっている。

〈和人〉以外のグループについて見ると、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉の壮年層と老年層に限っては、経験を持つことが多くの交流に結び付いている(壮年層では「経験あり」83.3%、「経験なし」61.6%、老年層では「経験あり」100.0%、「経験なし」78.2%)。ちなみに〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉の壮年層において、学校でアイヌの歴史を学んだ経験を持つ者は31.6%、老年層では8.0%である。当該グループの場合、自身や配偶者がアイヌの血筋である者に比べると、アイヌの人々との距離を縮める何かがさらに必要であると考えれば、アイヌの歴史を学んだ経験がそれにあたるということではないだろうか。ただし、交流内容については、「経験あり」と「経験なし」の違いを見出すことは難しい。

表1-15 アイヌの人々との交流×学校でアイヌの歴史を学んだ(アイヌ性別・世代別)

		度数(%)					合計
		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	不明	
和人青年層	経験あり	8 (30.8)	1 (3.8)	6 (23.1)	11 (42.3)	0 (0.0)	26 (100.0)
	経験なし	4 (9.5)	7 (16.7)	6 (14.3)	24 (57.1)	1 (2.4)	42 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
和人壮年層	経験あり	7 (13.2)	13 (24.5)	12 (22.6)	19 (35.8)	2 (3.8)	53 (100.0)
	経験なし	22 (22.7)	34 (35.1)	13 (13.4)	26 (26.8)	2 (2.1)	97 (100.0)
	不明	1 (7.7)	3 (23.1)	3 (23.1)	4 (30.8)	2 (15.4)	13 (100.0)
和人老年層	経験あり	5 (21.7)	12 (52.2)	3 (13.0)	3 (13.0)	0 (0.0)	23 (100.0)
	経験なし	58 (28.7)	69 (34.2)	39 (19.3)	29 (14.4)	7 (3.5)	202 (100.0)
	不明	6 (33.3)	6 (33.3)	2 (11.1)	0 (0.0)	4 (22.2)	18 (100.0)
和人 計		111 (23.3)	145 (30.5)	85 (17.9)	117 (24.6)	18 (3.8)	476 (100.0)
本人(壮)	経験あり	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	経験なし	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人(老)	経験ない	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人 計		2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
配偶者(壮)	経験なし	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族(青)	経験あり	3 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	経験なし	1 (33.3)	3 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)

家族（壮）	経験あり	3 (50.0)	2 (33.3)	1 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (100.0)
	経験なし	3 (23.1)	5 (38.5)	2 (15.4)	2 (15.4)	1 (7.7)	13 (100.0)
家族（老）	経験あり	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	経験なし	9 (39.1)	9 (39.1)	2 (8.7)	1 (4.3)	2 (8.7)	23 (100.0)
家族 計		21 (42.0)	18 (36.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	50 (100.0)
合計		136 (25.6)	163 (30.6)	91 (17.1)	121 (22.7)	21 (3.9)	532 (100.0)

表1-16 アイヌの人々との交流の内容×学校でアイヌの歴史を学んだ（アイヌ性別・世代別）

		度数（％）							合計
		近所 付き合い	職場 付き合い	趣味の 付き合い	子どもを 介した 付き合い	インター ネット	学生時代 からの 付き合い	その他	
和人青年層	経験あり	5 (19.2)	7 (26.9)	2 (7.7)	4 (15.4)	0 (0.0)	1 (3.8)	2 (7.7)	26 (100.0)
	経験なし	3 (7.1)	6 (14.3)	3 (7.1)	4 (9.5)	0 (0.0)	6 (14.3)	0 (0.0)	42 (100.0)
	不明	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
和人壮年層	経験あり	14 (26.4)	16 (30.2)	3 (5.7)	8 (15.1)	0 (0.0)	12 (22.6)	7 (13.2)	53 (100.0)
	経験なし	30 (30.9)	29 (29.9)	3 (3.1)	15 (15.5)	0 (0.0)	16 (16.5)	7 (7.2)	97 (100.0)
	不明	1 (7.7)	2 (15.4)	0 (0.0)	1 (7.7)	0 (0.0)	1 (7.7)	1 (7.7)	13 (100.0)
和人老年層	経験あり	10 (43.5)	8 (34.8)	5 (21.7)	1 (4.3)	0 (0.0)	4 (17.4)	2 (8.7)	23 (100.0)
	経験なし	64 (31.7)	40 (19.8)	25 (12.4)	9 (4.5)	0 (0.0)	27 (13.4)	24 (11.9)	202 (100.0)
	不明	9 (50.0)	3 (16.7)	1 (5.6)	1 (5.6)	0 (0.0)	1 (5.6)	3 (16.7)	18 (100.0)
和人 計		137 (28.8)	111 (23.3)	42 (8.8)	43 (9.0)	0 (0.0)	68 (14.3)	46 (9.7)	476 (100.0)
本人（壮）	経験あり	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	経験なし	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
本人（老）	経験あり	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	経験なし	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人 計		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	経験なし	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
家族（青）	経験あり	1 (33.3)	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
	経験なし	2 (66.7)	2 (66.7)	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
家族（壮）	経験あり	3 (50.0)	4 (66.7)	1 (16.7)	3 (50.0)	0 (0.0)	3 (50.0)	0 (0.0)	6 (100.0)
	経験なし	4 (30.8)	5 (38.5)	1 (7.7)	2 (15.4)	0 (0.0)	4 (30.8)	1 (7.7)	13 (100.0)
家族（老）	経験あり	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)	2 (100.0)
	経験なし	11 (47.8)	7 (30.4)	7 (30.4)	3 (13.0)	1 (4.3)	2 (8.7)	5 (21.7)	23 (100.0)
家族 計		21 (42.0)	20 (40.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	1 (2.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	50 (100.0)
合計		159 (29.9)	132 (24.8)	53 (10.0)	51 (9.6)	1 (0.2)	79 (14.8)	57 (10.7)	532 (100.0)

注）それぞれについて「あり」と回答した数と％を記載

（2）学校でアイヌの文化を体験した経験

ここでは、学校における文化体験に注目する。学校でアイヌ文化を体験した経験率を世代毎に確認すると、「体験あり」は青年層11.4%、壮年層8.0%、老年層3.3%であり、3世代すべてにおいて「体験なし」の比率の方が高く、その開きは、青年層では「体験あり」の7.8倍、壮年層では同11.2倍、老年層では同27.9倍にのぼる⁷⁾。このような状況における「交流あり」の数値を見ると、青年層では、「体験あり」37.5%、「体験なし」27.4%、壮年層では、「体験あり」38.5%、「体験なし」50.3%、老年層では、「体験あり」87.5%、「体験なし」62.8%であり、青年層と老年層においては、「体験あり」と回答する者において「交流あり」の数値がより高く、壮年層においてはその逆、という結果である（表1-17）。これは、上記「学校でアイヌの歴史を学んだ経験」に関してむかわ町の〈和人〉の世代的な特徴として指摘されたことと同じであり、さらに探る必要があろう。交流内容については、「体験あり」と回答する者において「交流あり」の数

値が高い項目が多い傾向はみられないという結果である（表1－18）。

〈和人〉以外のグループについて、学校でのアイヌ文化体験の経験有無を問うと、〈本人がアイヌの血筋の者〉〈配偶者がアイヌの血筋の者〉においては「体験なし」の者しかおらず、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉についても、「体験あり」は青年層では16.7%、壮年層では10.5%、老年層では12.0%であり、〈和人〉よりやや高い程度である。「学校でアイヌの歴史を学んだ経験」の場合とは異なり、アイヌの文化を体験したことが交流の頻度・内容に関してどのような影響を持つのかを見出すことはできない。

表1－17 アイヌの人々との交流×学校でアイヌの文化を体験（アイヌ性別・世代別）

		度数（％）					合計
		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	不明	
和人青年層	体験あり	3 (37.5)	0 (0.0)	1 (12.5)	4 (50.0)	0 (0.0)	8 (100.0)
	体験なし	9 (14.5)	8 (12.9)	12 (19.4)	32 (51.6)	1 (1.6)	62 (100.0)
和人壮年層	体験あり	1 (7.7)	4 (30.8)	1 (7.7)	7 (53.8)	0 (0.0)	13 (100.0)
	体験なし	29 (20.0)	44 (30.3)	26 (17.9)	41 (28.3)	5 (3.4)	145 (100.0)
	不明	0 (0.0)	2 (40.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	5 (100.0)
和人老年層	体験あり	2 (25.0)	5 (62.5)	1 (12.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (100.0)
	体験なし	64 (28.7)	76 (34.1)	43 (19.3)	32 (14.3)	8 (3.6)	223 (100.0)
	不明	3 (25.0)	6 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (25.0)	12 (100.0)
和人 計		111 (23.3)	145 (30.5)	85 (17.9)	117 (24.6)	18 (3.8)	476 (100.0)
本人（壮）	体験なし	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
本人（老）	体験なし	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
本人 計		2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	体験なし	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（青）	体験あり	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	体験なし	3 (60.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
家族（壮）	体験あり	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	体験なし	6 (37.5)	6 (37.5)	2 (12.5)	1 (6.3)	1 (6.3)	16 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（老）	体験あり	3 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	体験なし	8 (38.1)	9 (42.9)	2 (9.5)	1 (4.8)	1 (4.8)	21 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
家族 計		21 (42.0)	18 (36.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	50 (100.0)
合計		136 (25.6)	163 (30.6)	91 (17.1)	121 (22.7)	21 (3.9)	532 (100.0)

表1－18 アイヌの人々との交流の内容×学校でアイヌの文化を体験（アイヌ性別・世代別）

		度数（％）							合計
		近所 付き合い	職場 付き合い	趣味の 付き合い	子どもを 介した 付き合い	インター ネット	学生時代 からの 付き合い	その他	
和人青年層	体験あり	3 (37.5)	1 (12.5)	2 (25.0)	2 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (25.0)	8 (100.0)
	体験なし	6 (9.7)	12 (19.4)	3 (4.8)	6 (9.7)	0 (0.0)	7 (11.3)	0 (0.0)	62 (100.0)
和人壮年層	体験あり	3 (23.1)	4 (30.8)	0 (0.0)	2 (15.4)	0 (0.0)	1 (7.7)	1 (7.7)	13 (100.0)
	体験なし	42 (29.0)	41 (28.3)	6 (4.1)	22 (15.2)	0 (0.0)	27 (18.6)	13 (9.0)	145 (100.0)
	不明	0 (0.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	5 (100.0)
和人老年層	体験あり	3 (37.5)	3 (37.5)	1 (12.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (12.5)	8 (100.0)
	体験なし	74 (33.2)	45 (20.2)	28 (12.6)	10 (4.5)	0 (0.0)	29 (13.0)	27 (12.1)	223 (100.0)
	不明	6 (50.0)	3 (25.0)	2 (16.7)	1 (8.3)	0 (0.0)	3 (25.0)	1 (8.3)	12 (100.0)
和人 計		137 (28.8)	111 (23.3)	42 (8.8)	43 (9.0)	0 (0.0)	68 (14.3)	46 (9.7)	476 (100.0)
本人（壮）	体験なし	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
本人（老）	体験なし	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
本人 計		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	4 (100.0)

配偶者（壮）	体験なし	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
家族（青）	体験あり	1 (100.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	体験なし	2 (40.0)	3 (60.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
家族（壮）	体験あり	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	体験なし	6 (37.5)	9 (56.3)	2 (12.5)	5 (31.3)	0 (0.0)	7 (43.8)	1 (6.3)	16 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（老）	体験あり	1 (33.3)	1 (33.3)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)	3 (100.0)
	体験なし	10 (47.6)	6 (28.6)	7 (33.3)	2 (9.5)	1 (4.8)	1 (4.8)	4 (19.0)	21 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族 計		21 (42.0)	20 (40.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	1 (2.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	50 (100.0)
合計		159 (29.9)	132 (24.8)	53 (10.0)	51 (9.6)	1 (0.2)	79 (14.8)	57 (10.7)	532 (100.0)

注) それぞれについて「あり」と回答した数と%を記載

（3）アイヌ文化に関する知識

続いて、アイヌ文化に関する知識の有無と交流のありようとの関係を見る。知識を得る場は学校だけに限らないからである。まず、アイヌ文化に関する知識の有無を各世代について確かめると、アイヌ文化を「知っている」は、青年層51.4%、壮年層54.6%、老年層41.6%である。3世代ともおよそ半数が知識を持っていると答えており、世代間の差は少ない⁸⁾。これは、学校でアイヌの歴史を学ぶ経験を持たなくても、その後何らかの機会を得てアイヌの文化に関する知識を獲得した者が少なからずいることを示している。

こうした状況をふまえて「交流あり」の比率を知識の有無の別に見ると、青年層では、「知っている」36.1%、「知らない」20.6%、壮年層では、「知っている」51.7%、「知らない」48.4%、老年層では、「知っている」69.4%、「知らない」60.6%となり、3世代ともアイヌ文化に関する知識を持つ者において「交流あり」の数値はより高い（表1-19）。交流内容を各項目について見たとき、知識を持つ者において「交流あり」の数値がより高い項目が相対的に多い（表1-20）。この傾向は全世代にいえることである。なかでも、「職場付き合い」「趣味の付き合い」「学生時代からの付き合い」の3つに関しては、3世代すべてにおいて、「知っている」と回答する者の比率の方が高くなっている。この場合、アイヌ文化に関する知識の有無が交流のあり方を規定する一方で、交流を持つことによって知識が増え、知識が増えたことでさらに交流が盛んに行われるという効果も当然考えられるだろう。

〈和人〉以外のグループについてはどうだろうか。〈和人〉と比較すると、アイヌの知識を持つ者の比率がそもそも全体として高く、「知らない」と回答する者は、〈配偶者がアイヌの血筋の者〉の壮年層と、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉の壮年層に見られるだけである。〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉について知識の有無をさらに世代毎に見ると、青年層83.3%、壮年層89.5%、老年層92.0%が「知っている」と回答している。こうした状況であることから、アイヌ文化の知識の有無による交流実態の違いを取り出すことは難しいという結果である。

表1-19 アイヌの人々との交流×アイヌ文化の知識有無（アイヌ性別・世代別）

		度数（％）					合計
		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	不明	
和人青年層	知っている	7 (19.4)	6 (16.7)	8 (22.2)	15 (41.7)	0 (0.0)	36 (100.0)
	知らない	5 (14.7)	2 (5.9)	5 (14.7)	21 (61.8)	1 (2.9)	34 (100.0)
和人壮年層	知っている	17 (19.1)	29 (32.6)	17 (19.1)	24 (27.0)	2 (2.2)	89 (100.0)
	知らない	13 (20.3)	18 (28.1)	9 (14.1)	22 (34.4)	2 (3.1)	64 (100.0)
	不明	0 (0.0)	3 (30.0)	2 (20.0)	3 (30.0)	2 (20.0)	10 (100.0)
和人老年層	知っている	35 (34.7)	35 (34.7)	16 (15.8)	11 (10.9)	4 (4.0)	101 (100.0)
	知らない	26 (25.0)	37 (35.6)	21 (20.2)	18 (17.3)	2 (1.9)	104 (100.0)
	不明	8 (21.1)	15 (39.5)	7 (18.4)	3 (7.9)	5 (13.2)	38 (100.0)
和人 計		111 (23.3)	145 (30.5)	85 (17.9)	117 (24.6)	18 (3.8)	476 (100.0)
本人（壮）	知っている	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人（老）	知っている	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
本人 計		2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	知らない	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（青）	知っている	4 (80.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	不明	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（壮）	知っている	6 (35.3)	7 (41.2)	2 (11.8)	1 (5.9)	1 (5.9)	17 (100.0)
	知らない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（老）	知っている	11 (47.8)	9 (39.1)	1 (4.3)	1 (4.3)	1 (4.3)	23 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
家族 計		21 (42.0)	18 (36.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	50 (100.0)
合計		136 (25.6)	163 (30.6)	91 (17.1)	121 (22.7)	21 (3.9)	532 (100.0)

表1-20 アイヌの人々との交流の内容×アイヌ文化の知識有無（アイヌ性別・世代別）

		度数（％）							合計
		近所 付き合い	職場 付き合い	趣味の 付き合い	子どもを 介した 付き合い	インター ネット	学生時代 からの 付き合い	その他	
和人青年層	知っている	4 (11.1)	8 (22.2)	4 (11.1)	4 (11.1)	0 (0.0)	5 (13.9)	2 (5.6)	36 (100.0)
	知らない	5 (14.7)	5 (14.7)	1 (2.9)	4 (11.8)	0 (0.0)	2 (5.9)	0 (0.0)	34 (100.0)
和人壮年層	知っている	27 (30.3)	29 (32.6)	4 (4.5)	17 (19.1)	0 (0.0)	17 (19.1)	7 (7.9)	89 (100.0)
	知らない	17 (26.6)	15 (23.4)	2 (3.1)	7 (10.9)	0 (0.0)	11 (17.2)	6 (9.4)	64 (100.0)
	不明	1 (10.0)	3 (30.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (10.0)	2 (20.0)	10 (100.0)
和人老年層	知っている	39 (38.6)	24 (23.8)	21 (20.8)	4 (4.0)	0 (0.0)	16 (15.8)	13 (12.9)	101 (100.0)
	知らない	29 (27.9)	19 (18.3)	8 (7.7)	5 (4.8)	0 (0.0)	14 (13.5)	11 (10.6)	104 (100.0)
	不明	15 (39.5)	8 (21.1)	2 (5.3)	2 (5.3)	0 (0.0)	2 (5.3)	5 (13.2)	38 (100.0)
和人 計		137 (28.8)	111 (23.3)	42 (8.8)	43 (9.0)	0 (0.0)	68 (14.3)	46 (9.7)	476 (100.0)
本人（壮）	知っている	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人（老）	知っている	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
本人 計		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	知らない	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
家族（青）	知っている	3 (60.0)	4 (80.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（壮）	知っている	6 (35.3)	9 (52.9)	2 (11.8)	5 (29.4)	0 (0.0)	7 (41.2)	1 (5.9)	17 (100.0)
	知らない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	不明	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（老）	知っている	10 (43.5)	7 (30.4)	7 (30.4)	3 (13.0)	1 (4.3)	2 (8.7)	7 (30.4)	23 (100.0)
	不明	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族 計		21 (42.0)	20 (40.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	1 (2.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	(100.0)
合計		159 (29.9)	132 (24.8)	53 (10.0)	51 (9.6)	1 (0.2)	79 (14.8)	57 (10.7)	(100.0)

注）それぞれについて「あり」と回答した数と％を記載

(4) アイヌ文化に関する体験

では、アイヌ文化に関する「知識」ではなく、アイヌ文化に関する「体験」を持つことはアイヌの人々とのより豊かな交流に結び付いているのだろうか⁹⁾。「交流あり」を体験の有無によって整理すると、青年層では、「体験あり」22.2%、「体験なし」29.5%、壮年層では、「体験あり」60.8%、「体験なし」48.1%、老年層では、「体験あり」77.7%、「体験なし」62.1%となる(表1-21)。壮年層および老年層において、体験を持つ者において「交流あり」の数値が高い。このことから、青年層においては、アイヌ文化に関する体験の有無によって交流頻度はあまり左右されないが、年長世代では、体験を持つことが交流を持つことにつながっていることがわかる。同時に、交流の経験を重ねることがアイヌ文化に関する体験を増やすことになっている場合もあるだろう。

それぞれの交流内容についてみると、体験を持つ者において「交流あり」の数値がより高い項目が相対的に多い(表1-22)。その項目とは、青年層では「近所付き合い」「職場付き合い」「趣味の付き合い」、壮年層では「近所付き合い」「職場付き合い」「趣味の付き合い」「子どもを介した付き合い」、老年層では「近所付き合い」「趣味の付き合い」「子どもを介した付き合い」「学生時代からの付き合い」(「その他」を除く)であり、「近所付き合い」と「趣味の付き合い」に関しては全世代において、「職場付き合い」については青年層と壮年層において、「子どもを介した付き合い」では壮年層と老年層において、「体験あり」と回答する者の比率の方が高くなっている。

和人以外のグループのうち、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉では、〈和人〉と同じく、青年層では体験の有無による差が見られず、壮年層と老年層では「交流あり」の比率が「体験あり」と回答する者においてより高くなっているが、〈本人がアイヌの血筋の者〉〈配偶者がアイヌの血筋の者〉については体験の有無の影響を見出すことはできない。

表1-21 アイヌの人々との交流×アイヌの文化の体験有無(アイヌ性別・世代別)

		度数(%)					合計
		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	不明	
和人青年層	体験あり	2 (22.2)	0 (0.0)	2 (22.2)	5 (55.6)	0 (0.0)	9 (100.0)
	体験なし	10 (16.4)	8 (13.1)	11 (18.0)	31 (50.8)	1 (1.6)	61 (100.0)
和人壮年層	体験あり	3 (13.0)	11 (47.8)	5 (21.7)	3 (13.0)	1 (4.3)	23 (100.0)
	体験なし	26 (20.5)	35 (27.6)	20 (15.7)	43 (33.9)	3 (2.4)	127 (100.0)
	不明	1 (7.7)	4 (30.8)	3 (23.1)	3 (23.1)	2 (15.4)	13 (100.0)
和人老年層	体験あり	12 (33.3)	16 (44.4)	3 (8.3)	4 (11.1)	1 (2.8)	36 (100.0)
	体験なし	44 (27.3)	56 (34.8)	33 (20.5)	23 (14.3)	5 (3.1)	161 (100.0)
	不明	13 (28.3)	15 (32.6)	8 (17.4)	5 (10.9)	5 (10.9)	46 (100.0)
和人 計		111 (23.3)	145 (30.5)	85 (17.9)	117 (24.6)	18 (3.8)	476 (100.0)
本人(壮)	体験あり	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	体験なし	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人(老)	体験あり	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人 計		2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
配偶者(壮)	体験なし	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族(青)	体験あり	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	体験なし	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	不明	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)

家族（壮）	体験あり	2 (22.2)	6 (66.7)	1 (11.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (100.0)
	体験なし	4 (50.0)	0 (0.0)	1 (12.5)	2 (25.0)	1 (12.5)	8 (100.0)
	不明	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（老）	体験あり	7 (53.8)	5 (38.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.7)	13 (100.0)
	体験なし	2 (28.6)	3 (42.9)	1 (14.3)	0 (0.0)	1 (14.3)	7 (100.0)
	不明	2 (40.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
家族 計		21 (42.0)	18 (36.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	50 (100.0)
合計		136 (25.6)	163 (30.6)	91 (17.1)	121 (22.7)	21 (3.9)	532 (100.0)

表1－22 アイヌの人々との交流の内容×アイヌの文化の体験有無（アイヌ性別・世代別）

		度数（％）							合計
		近所 付き合い	職場 付き合い	趣味の 付き合い	子どもを 介した 付き合い	インター ネット	学生時代 からの 付き合い	その他	
和人青年層	体験あり	2 (22.2)	2 (22.2)	2 (22.2)	1 (11.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (22.2)	9 (100.0)
	体験なし	7 (11.5)	11 (18.0)	3 (4.9)	7 (11.5)	0 (0.0)	7 (11.5)	0 (0.0)	61 (100.0)
和人壮年層	体験あり	7 (30.4)	9 (39.1)	2 (8.7)	8 (34.8)	0 (0.0)	2 (8.7)	3 (13.0)	23 (100.0)
	体験なし	37 (29.1)	33 (26.0)	4 (3.1)	15 (11.8)	0 (0.0)	25 (19.7)	11 (8.7)	127 (100.0)
	不明	1 (7.7)	5 (38.5)	0 (0.0)	1 (7.7)	0 (0.0)	2 (15.4)	1 (7.7)	13 (100.0)
和人老年層	体験あり	14 (38.9)	7 (19.4)	11 (30.6)	3 (8.3)	0 (0.0)	7 (19.4)	6 (16.7)	36 (100.0)
	体験なし	53 (32.9)	33 (20.5)	15 (9.3)	7 (4.3)	0 (0.0)	23 (14.3)	18 (11.2)	161 (100.0)
	不明	16 (34.8)	11 (23.9)	5 (10.9)	1 (2.2)	0 (0.0)	2 (4.3)	5 (10.9)	46 (100.0)
和人 計		137 (28.8)	111 (23.3)	42 (8.8)	43 (9.0)	0 (0.0)	68 (14.3)	46 (9.7)	476 (100.0)
本人（壮）	体験あり	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	体験なし	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
本人（老）	体験あり	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人 計		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	体験なし	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
家族（青）	体験あり	2 (100.0)	2 (100.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	体験なし	1 (33.3)	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（壮）	体験あり	5 (55.6)	6 (66.7)	1 (11.1)	2 (22.2)	0 (0.0)	2 (22.2)	0 (0.0)	9 (100.0)
	体験なし	1 (12.5)	3 (37.5)	0 (0.0)	3 (37.5)	0 (0.0)	4 (50.0)	1 (12.5)	8 (100.0)
	不明	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（老）	体験あり	6 (46.2)	1 (7.7)	5 (38.5)	2 (15.4)	0 (0.0)	1 (7.7)	4 (30.8)	13 (100.0)
	体験なし	4 (57.1)	4 (57.1)	1 (14.3)	1 (14.3)	1 (14.3)	1 (14.3)	2 (28.6)	7 (100.0)
	不明	1 (20.0)	2 (40.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	5 (100.0)
家族 計		21 (42.0)	20 (40.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	1 (2.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	50 (100.0)
合計		159 (29.9)	132 (24.8)	53 (10.0)	51 (9.6)	1 (0.2)	79 (14.8)	57 (10.7)	532 (100.0)

注) それぞれについて「あり」と回答した数と％を記載

（5）アイヌ文化に関する体験への希望

さらに、「体験」の有無ではなく、「体験希望」の有無という点から見るとどうだろうか。アイヌ文化に関する体験への希望を持つことが、交流状況に何らかの影響を及ぼすことはあるのだろうか。これは経験ではなく積極的な意志の有無を問うものである¹⁰⁾。「交流あり」の比率を体験希望の有無によって整理すると、青年層では、「希望あり」30.8%、「希望なし」28.6%、壮年層では、「希望あり」56.7%、「希望なし」47.7%、老年層では、「希望あり」71.8%、「希望なし」61.1%である（表1－23）。これを見ると、3世代すべてにおいて、「交流あり」の数値は「希望あり」の者において高い。このように、全世代について、体験希望を持つ者において交流

頻度がより高い。

そこで、アイヌ文化に関する体験希望の有無と交流内容をまとめたものを見てみよう。「希望あり」と回答する者における「交流あり」の数値がより高い項目を見ていくと（「その他」を除く）、青年層では、「近所付き合い」「趣味の付き合い」「子どもを介した付き合い」、壮年層では、「近所付き合い」「職場付き合い」「趣味の付き合い」「子どもを介した付き合い」、老年層では、「近所付き合い」「職場付き合い」「趣味の付き合い」「学生時代からの付き合い」となり、希望を持つ者において「交流あり」の数値がより高い項目が相対的に多い（表1-24）。「近所付き合い」「趣味の付き合い」については3世代、「職場付き合い」については壮年層と老年層において、「希望あり」の数値が「希望なし」を上回っている。この場合、アイヌ文化に関する体験希望の有無に関しても、体験の有無の場合と同じく、体験することへの関心がより多くの交流をもたらすと同時に、交流を重ねることによってアイヌ文化に関する体験への関心が増す、という両方の効果があることが推察されよう。

〈和人〉以外のグループについて見ると、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉における体験希望者の比率は36.0%であり、〈和人〉の各世代よりは数値は高いが、「交流あり」の数値が、体験の希望を持つ者においてより高いということはない。ただし、「近所付き合い」と「趣味の付き合い」については3世代において「希望あり」と回答する者の「交流あり」の数値の方が高くなっている。

表1-23 アイヌの人々との交流×アイヌ文化の体験希望有無（アイヌ性別・世代別）

		度数 (%)					合計
		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	不明	
和人青年層	希望あり	2 (15.4)	2 (15.4)	2 (15.4)	6 (46.2)	1 (7.7)	13 (100.0)
	希望なし	10 (17.9)	6 (10.7)	11 (19.6)	29 (51.8)	0 (0.0)	56 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
和人壮年層	希望あり	6 (16.2)	15 (40.5)	5 (13.5)	9 (24.3)	2 (5.4)	37 (100.0)
	希望なし	23 (21.1)	29 (26.6)	18 (16.5)	36 (33.0)	3 (2.8)	109 (100.0)
	不明	1 (5.9)	6 (35.3)	5 (29.4)	4 (23.5)	1 (5.9)	17 (100.0)
和人老年層	希望あり	17 (37.0)	16 (34.8)	7 (15.2)	6 (13.0)	0 (0.0)	46 (100.0)
	希望なし	33 (23.7)	52 (37.4)	29 (20.9)	21 (15.1)	4 (2.9)	139 (100.0)
	不明	19 (32.8)	19 (32.8)	8 (13.8)	5 (8.6)	7 (12.1)	58 (100.0)
和人 計		111 (23.3)	145 (30.5)	85 (17.9)	117 (24.6)	18 (3.8)	476 (100.0)
本人 (壮)	希望あり	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人 (老)	不明	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
本人 計		2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
配偶者 (壮)	希望なし	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族 (青)	希望あり	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	希望なし	3 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	不明	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族 (壮)	希望あり	0 (0.0)	3 (60.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	希望なし	5 (50.0)	2 (20.0)	1 (10.0)	2 (20.0)	0 (0.0)	10 (100.0)
	不明	1 (25.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	4 (100.0)
家族 (老)	希望あり	4 (36.4)	6 (54.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)	11 (100.0)
	希望なし	1 (25.0)	2 (50.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
	不明	6 (60.0)	1 (10.0)	1 (10.0)	1 (10.0)	1 (10.0)	10 (100.0)
家族 計		21 (42.0)	18 (36.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	50 (100.0)
合計		136 (24.6)	163 (30.6)	91 (17.1)	121 (22.7)	21 (3.9)	532 (100.0)

表1-24 アイヌの人々との交流の内容×アイヌ文化の体験希望有無（アイヌ性別・世代別）

		度数（％）							合計
		近所 付き合い	職場 付き合い	趣味の 付き合い	子どもを 介した 付き合い	インター ネット	学生時代 からの 付き合い	その他	
和人青年層	希望あり	4 (30.8)	2 (15.4)	2 (15.4)	2 (15.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (15.4)	13 (100.0)
	希望なし	5 (8.9)	11 (19.6)	3 (5.4)	6 (10.7)	0 (0.0)	7 (12.5)	0 (0.0)	56 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
和人壮年層	希望あり	13 (35.1)	14 (37.8)	3 (8.1)	7 (18.9)	0 (0.0)	6 (16.2)	4 (10.8)	37 (100.0)
	希望なし	30 (27.5)	28 (25.7)	3 (2.8)	16 (14.7)	0 (0.0)	21 (19.3)	9 (8.3)	109 (100.0)
	不明	2 (11.8)	5 (29.4)	0 (0.0)	1 (5.9)	0 (0.0)	2 (11.8)	2 (11.8)	17 (100.0)
和人老年層	希望あり	18 (39.1)	13 (28.3)	11 (23.9)	2 (4.3)	0 (0.0)	9 (19.6)	2 (4.3)	46 (100.0)
	希望なし	45 (32.4)	26 (18.7)	12 (8.6)	7 (5.0)	0 (0.0)	19 (13.7)	17 (12.2)	139 (100.0)
	不明	20 (34.5)	12 (20.7)	8 (13.8)	2 (3.4)	0 (0.0)	4 (6.9)	10 (17.2)	58 (100.0)
和人 計		137 (28.8)	111 (23.3)	42 (8.8)	43 (9.0)	0 (0.0)	68 (14.3)	46 (9.7)	476 (100.0)
本人（壮）	希望あり	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人（老）	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
本人 計		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	希望なし	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
家族（青）	希望あり	2 (100.0)	2 (100.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	希望なし	1 (33.3)	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（壮）	希望あり	3 (60.0)	2 (40.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	希望なし	3 (30.0)	4 (40.0)	0 (0.0)	2 (20.0)	0 (0.0)	4 (40.0)	1 (10.0)	10 (100.0)
	不明	1 (25.0)	3 (75.0)	1 (25.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
家族（老）	希望あり	6 (54.5)	2 (18.2)	4 (36.4)	1 (9.1)	0 (0.0)	1 (9.1)	1 (9.1)	11 (100.0)
	希望なし	2 (50.0)	2 (50.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
	不明	3 (30.0)	3 (30.0)	2 (20.0)	1 (10.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (40.0)	10 (100.0)
家族 計		21 (42.0)	20 (40.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	1 (2.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	50 (100.0)
合計		159 (29.9)	132 (24.8)	53 (10.0)	51 (9.6)	1 (0.2)	79 (14.8)	57 (10.7)	532 (100.0)

注）それぞれについて「あり」と回答した数と％を記載

第6項 市民としてのアイヌ文化への関心

最後に、アイヌ文化保存への意志、アイヌ文化保存の主体についての考え方、白老の国立の施設を設置することへの賛否という3点から交流状況をみる。上で見たのは、アイヌの歴史や文化への個人的関わり、個人的関心のありようであるが、ここで注目するのは、社会の一員としての意識である。アイヌの歴史や文化をどのように守っていくべきと考えるのか。こうした関心のありようによって交流状況は変わってくるのだろうか。

（1）アイヌ文化保存への賛同意志

まず、文化保存への賛同意志という点から見ていく。「交流あり」の数値を文化保存への賛同の程度という点から見ると、青年層では、「そう思う」33.3%、「ある程度そう思う」24.3%、「あまり思わない」33.3%、「思わない」33.3%、壮年層では、「そう思う」58.5%、「ある程度そう思う」47.5%、「あまり思わない」43.7%、「思わない」42.9%、老年層では、「そう思う」75.6%、「ある程度そう思う」64.3%、「あまり思わない」50.0%、「思わない」44.4%となる（表1-25）¹¹⁾。これを見ると、壮年層と老年層においては、より強く賛同する者において「交流あり」の比率がより高くなっている。アイヌ文化に関する知識、体験、体験希望の有無について

は、それらがより多くの交流を促すと同時に、より多くの交流がもたれることが知識や体験を増やし、体験希望を強くするという効果が推察されたが、このアイヌ文化保存への賛同意志についても同じことが考えられよう。一方、青年層においては保存への賛同の程度にかかわらず、「交流あり」の数値にはあまり変動がない。青年層における交流は、市民としての意識とは関係なく、というより、むしろ、アイヌ文化保存への無関心を抱えたまま行われている側面があるのではないか。

次に交流内容について見る。半数超の交流について、「そう思う」と回答する者において「交流あり」の数値が最も高い（表1-26）。これは3世代すべてに認められる傾向であり、交流毎に「そう思う」の数値をひろっていくと（「その他」を除く）、青年層では、「職場付き合い」33.3%、「趣味の付き合い」25.0%、「子どもを介した付き合い」16.7%（「あまりそう思わない」と同率）、「学生時代からの付き合い」25.0%、壮年層では、「職場付き合い」41.5%、「趣味の付き合い」7.3%、「子どもを介した付き合い」24.4%、「学生時代からの付き合い」24.4%、老年層では「近所付き合い」41.9%、「職場付き合い」24.3%、「趣味の付き合い」17.6%、「学生時代からの付き合い」17.6%となる。しかしながら、「そう思う」と回答する者における「交流あり」の比率が最高値を示している場合であっても、賛同の程度が強くなるにしたがって「交流あり」の数値が順に上昇するわけではない。そのような交流もあれば、そうではない交流もあり、規則性は認められない。

〈和人〉以外のグループについて、まずアイヌ文化保存への賛同意志を見る。「そう思う」「ある程度そう思う」の合計を見ると、〈本人がアイヌの血筋の者〉では100%、〈配偶者がアイヌの血筋の者〉では50.0%、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉の青年層では83.3%、壮年層では68.4%、老年層では84.0%であり、〈和人〉より高い水準にある。しかしながら、賛同意志の程度が交流頻度、交流内容のありようを規定することにはなっていない。

表1-25 アイヌの人々との交流×伝統文化保存への賛否（アイヌ性別・世代別）

		度数 (%)					合計
		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	不明	
和人青年層	そう思う	3 (25.0)	1 (8.3)	3 (25.0)	4 (33.3)	1 (8.3)	12 (100.0)
	ある程度	6 (16.2)	3 (8.1)	7 (18.9)	21 (56.8)	0 (0.0)	37 (100.0)
	あまり	1 (8.3)	3 (25.0)	1 (8.3)	7 (58.3)	0 (0.0)	12 (100.0)
	そう思わない	2 (22.2)	1 (11.1)	2 (22.2)	4 (44.4)	0 (0.0)	9 (100.0)
和人壮年層	そう思う	6 (14.6)	18 (43.9)	5 (12.2)	10 (24.4)	2 (4.9)	41 (100.0)
	ある程度	18 (22.5)	20 (25.0)	19 (23.8)	22 (27.5)	1 (1.3)	80 (100.0)
	あまり	5 (15.6)	9 (28.1)	4 (12.5)	13 (40.6)	1 (3.1)	32 (100.0)
	そう思わない	0 (0.0)	3 (42.9)	0 (0.0)	4 (57.1)	0 (0.0)	7 (100.0)
	不明	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (66.7)	3 (100.0)
和人老年層	そう思う	30 (40.5)	26 (35.1)	11 (14.9)	5 (6.8)	2 (2.7)	74 (100.0)
	ある程度	25 (21.7)	49 (42.6)	22 (19.1)	16 (13.9)	3 (2.6)	115 (100.0)
	あまり	9 (23.7)	10 (26.3)	8 (21.1)	8 (21.1)	3 (7.9)	38 (100.0)
	そう思わない	2 (22.2)	2 (22.2)	2 (22.2)	2 (22.2)	1 (11.1)	9 (100.0)
	不明	3 (42.9)	0 (0.0)	1 (14.3)	1 (14.3)	2 (28.6)	7 (100.0)
和人 計		111 (23.3)	145 (30.5)	85 (17.9)	117 (24.6)	18 (3.8)	476 (100.0)
本人 (壮)	そう思う	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	ある程度	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人 (老)	そう思う	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
本人 計		2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)

配偶者（壮）	ある程度	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	そう思わない	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
配偶者 計		2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（青）	そう思う	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	ある程度	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	そう思わない	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（壮）	そう思う	2 (25.0)	5 (62.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (12.5)	8 (100.0)
	ある程度	1 (20.0)	2 (40.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	あまり	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
	そう思わない	1 (33.3)	0 (0.0)	1 (33.3)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
家族（老）	そう思う	9 (60.0)	4 (26.7)	1 (6.7)	0 (0.0)	1 (6.7)	15 (100.0)
	ある程度	1 (16.7)	4 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (16.7)	6 (100.0)
	あまり	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	そう思わない	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族 計		21 (42.0)	18 (36.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	50 (100.0)
合計		13 (25.6)	163 (30.6)	91 (17.1)	121 (22.7)	21 (3.9)	532 (100.0)

表1-26 アイヌの人々との交流×伝統文化保存への賛否（アイヌ性別・世代別）

		度数（％）							合計
		近所 付き合い	職場 付き合い	趣味の 付き合い	子どもを 介した 付き合い	インター ネット	学生時代 からの 付き合い	その他	
和人青年層	そう思う	2 (16.7)	4 (33.3)	3 (25.0)	2 (16.7)	0 (0.0)	3 (25.0)	2 (16.7)	12 (100.0)
	ある程度	3 (8.1)	6 (16.2)	0 (0.0)	3 (8.1)	0 (0.0)	1 (2.7)	0 (0.0)	37 (100.0)
	あまり	1 (8.3)	1 (8.3)	1 (8.3)	2 (16.7)	0 (0.0)	1 (8.3)	0 (0.0)	12 (100.0)
	思わない	3 (33.3)	2 (22.2)	1 (11.1)	1 (11.1)	0 (0.0)	2 (22.2)	0 (0.0)	9 (100.0)
和人壮年層	そう思う	12 (29.3)	17 (41.5)	3 (7.3)	10 (24.4)	0 (0.0)	10 (24.4)	6 (14.6)	41 (100.0)
	ある程度	20 (25.0)	23 (28.8)	2 (2.5)	6 (7.5)	0 (0.0)	13 (16.3)	7 (8.8)	80 (100.0)
	あまり	10 (31.3)	7 (21.9)	1 (3.1)	6 (18.8)	0 (0.0)	6 (18.8)	2 (6.3)	32 (100.0)
	思わない	2 (28.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (100.0)
	不明	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
和人老年層	そう思う	31 (41.9)	18 (24.3)	13 (17.6)	6 (8.1)	0 (0.0)	13 (17.6)	8 (10.8)	74 (100.0)
	ある程度	40 (34.8)	24 (20.9)	16 (13.9)	2 (1.7)	0 (0.0)	14 (12.2)	18 (15.7)	115 (100.0)
	あまり	7 (18.4)	7 (18.4)	2 (5.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (10.5)	2 (5.3)	38 (100.0)
	思わない	3 (33.3)	1 (11.1)	0 (0.0)	3 (33.3)	0 (0.0)	1 (11.1)	0 (0.0)	9 (100.0)
	不明	2 (28.6)	1 (14.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	7 (100.0)
和人 計		137 (28.8)	111 (23.3)	42 (8.8)	43 (9.0)	0 (0.0)	68 (14.3)	46 (9.7)	476 (100.0)
本人（壮）	そう思う	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	ある程度	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
本人（老）	そう思う	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
本人 計		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	ある程度	1 (100.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	思わない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
配偶者 計		1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
家族（青）	そう思う	2 (100.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	ある程度	0 (0.0)	1 (33.3)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
	思わない	1 (100.0)	1 (100.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（壮）	そう思う	4 (50.0)	6 (75.0)	2 (25.0)	3 (37.5)	0 (0.0)	4 (50.0)	0 (0.0)	8 (100.0)
	ある程度	1 (20.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	5 (100.0)
	あまり	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	2 (66.7)	0 (0.0)	3 (100.0)
	思わない	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
家族（老）	そう思う	4 (26.7)	4 (26.7)	5 (33.3)	2 (13.3)	1 (6.7)	2 (13.3)	5 (33.3)	15 (100.0)
	ある程度	5 (83.3)	1 (16.7)	2 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (16.7)	6 (100.0)
	あまり	2 (100.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
	思わない	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族計		21 (42.0)	20 (40.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	1 (2.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	50 (100.0)
合計		159 (29.9)	132 (24.8)	53 (10.0)	51 (9.6)	1 (0.2)	79 (14.8)	57 (10.7)	532 (100.0)

注）それぞれについて「あり」と回答した数と％を記載

(2) アイヌ文化保存の主体についての考え方

では、「誰が主体となってアイヌ文化を後世に残していくべきなのか」と問われたとき、どのような回答をする者がどのような交流をしているのだろうか（表1-27）¹²⁾。「交流あり」の数値が高い順に見ると（「その他」を除く）、青年層では「地域ごと」33.4%、「アイヌの人々」30.4%、「国として」25.9%、壮年層では「国として」55.8%、「アイヌの人々」53.1%、「地域ごと」37.7%、老年層では「アイヌの人々」71.6%、「地域ごと」48.6%、「国として」40.8%となる。世代によって傾向が異なり、青年層においては「地域ごと」と回答する者の「交流あり」の数値が最も高いのに対して、壮年層では「国として」、老年層では「アイヌの人々」との回答が優勢である。とくに、老年層の「アイヌの人々」の数値が突出して高いことが注目されるが、ここには、アイヌの人々の意志を尊重することの強調から、国の主導を待つことへの批判まで多様な意見が含まれていると推察される。日常場面でアイヌの人々との出会いや接触がある状況において、老年層の交流は、アイヌの人々自身の姿勢を問いながら実践されていると見ることができる。アイヌ文化保存の主体についての考え方の違いによって交流の内容に違いがあるのかを確認するならば、一定の傾向を見出すことは難しい（表1-28）。

〈和人〉以外のグループのアイヌ文化保存の主体についての考え方を整理すると、〈本人がアイヌの血筋の者〉壮年層・老年層はともに「国として」、〈配偶者がアイヌの血筋の者〉壮年層は「アイヌの人々」、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉青年層で最も比率が高いのは「国として」、壮年層では同じく「地域ごと」、老年層では同じく「国として」である。国主導のアイヌ文化保存を期待する者が多い状況での「交流あり」の比率を見ると、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉については、〈和人〉における世代の特徴との共通点として、壮年層では「国として」、老年層では「アイヌの人々」の数値が最も高いことがあげられる。

表1-27 アイヌの人々との交流×伝統文化の残し方（アイヌ性別・世代別）

		度数（％）					合計
		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	不明	
和人青年層	アイヌの人々	4 (17.4)	3 (13.0)	5 (21.7)	11 (47.8)	1 (0.0)	23 (100.0)
	国として	5 (18.5)	2 (7.4)	4 (14.8)	16 (59.3)	0 (0.0)	27 (100.0)
	地域ごと	3 (16.7)	3 (16.7)	3 (16.7)	8 (44.4)	1 (5.6)	18 (100.0)
	その他	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
和人壮年層	アイヌの人々	10 (20.4)	16 (32.7)	7 (14.3)	16 (32.7)	0 (0.0)	49 (100.0)
	国として	12 (19.7)	22 (36.1)	11 (18.0)	15 (24.6)	1 (1.6)	61 (100.0)
	地域ごと	6 (13.3)	11 (24.4)	9 (20.0)	16 (35.6)	3 (6.7)	45 (100.0)
	その他	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
	不明	1 (25.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
和人老年層	アイヌの人々	17 (28.3)	26 (43.3)	7 (11.7)	8 (13.3)	2 (3.3)	60 (100.0)
	国として	34 (37.4)	34 (3.4)	2 (13.2)	7 (7.7)	4 (4.4)	91 (100.0)
	地域ごと	11 (16.2)	22 (32.4)	18 (26.5)	15 (22.1)	2 (2.9)	68 (100.0)
	その他	5 (41.7)	3 (25.0)	2 (16.7)	1 (8.3)	1 (8.3)	12 (100.0)
	不明	2 (16.7)	2 (16.7)	5 (41.7)	1 (8.3)	2 (16.7)	12 (100.0)
和人 計		111 (23.3)	145 (30.5)	85 (17.9)	117 (24.6)	18 (3.8)	476 (100.0)
本人（壮）	国として	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人（老）	国として	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人 計		2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)

配偶者（壮）	アイヌの人々	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（青）	アイヌの人々	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	国として	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	地域ごと	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（壮）	アイヌの人々	3 (60.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	国として	0 (0.0)	3 (75.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	4 (100.0)
	地域ごと	2 (25.0)	3 (37.5)	3 (37.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (100.0)
	その他	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（老）	アイヌの人々	3 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	国として	5 (35.7)	7 (50.0)	1 (7.1)	0 (0.0)	1 (7.1)	14 (100.0)
	地域ごと	2 (40.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	その他	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
家族 計		21 (42.0)	18 (36.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	50 (100.0)
合計		136 (25.6)	163 (30.6)	91 (17.1)	121 (22.7)	21 (3.9)	532 (100.0)

表1-28 アイヌの人々との交流の内容×伝統文化の残し方（アイヌ性別・世代別）

		度数（％）							合計
		近所 付き合い	職場 付き合い	趣味の 付き合い	子どもを 介した 付き合い	インター ネット	学生時代 からの 付き合い	その他	
和人青年層	アイヌの人々	3 (13.0)	4 (17.4)	1 (4.3)	4 (17.4)	0 (0.0)	3 (13.0)	0 (0.0)	23 (100.0)
	国として	3 (11.1)	4 (14.8)	3 (11.1)	4 (14.8)	0 (0.0)	2 (7.4)	2 (7.4)	27 (100.0)
	地域ごと	3 (16.7)	5 (27.8)	1 (5.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (11.1)	0 (0.0)	18 (100.0)
	その他	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
和人壮年層	アイヌの人々	15 (30.6)	14 (28.6)	2 (4.1)	10 (20.4)	0 (0.0)	7 (14.3)	4 (8.2)	49 (100.0)
	国として	22 (36.1)	19 (31.1)	3 (4.9)	7 (11.5)	0 (0.0)	14 (23.0)	5 (8.2)	61 (100.0)
	地域ごと	6 (13.3)	13 (28.9)	1 (2.2)	5 (11.1)	0 (0.0)	7 (15.6)	5 (11.1)	45 (100.0)
	その他	1 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	4 (100.0)
	不明	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
和人老年層	アイヌの人々	25 (41.7)	13 (21.7)	10 (16.7)	6 (10.0)	0 (0.0)	8 (13.3)	6 (10.0)	60 (100.0)
	国として	39 (42.9)	21 (23.1)	12 (13.2)	3 (3.3)	0 (0.0)	13 (14.3)	13 (14.3)	91 (100.0)
	地域ごと	13 (19.1)	14 (20.6)	8 (11.8)	2 (2.9)	0 (0.0)	9 (13.2)	7 (10.3)	68 (100.0)
	その他	4 (33.3)	2 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (25.0)	12 (100.0)
	不明	2 (16.7)	1 (8.3)	1 (8.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (16.7)	0 (0.0)	12 (100.0)
和人 計		137 (28.8)	111 (23.3)	42 (8.8)	43 (9.0)	0 (0.0)	68 (14.3)	46 (9.7)	476 (100.0)
本人（壮）	国として	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
本人（老）	国として	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人 計		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	アイヌの人々	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
家族（青）	アイヌの人々	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	国として	3 (100.0)	3 (100.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
	地域ごと	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（壮）	アイヌの人々	2 (40.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	国として	1 (25.0)	2 (50.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
	地域ごと	4 (50.0)	3 (37.5)	1 (12.5)	1 (12.5)	0 (0.0)	2 (25.0)	1 (12.5)	8 (100.0)
	その他	0 (0.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（老）	アイヌの人々	1 (33.3)	1 (33.3)	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	国として	6 (42.9)	2 (14.3)	3 (21.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.1)	5 (35.7)	14 (100.0)
	地域ごと	2 (40.0)	2 (40.0)	2 (40.0)	2 (40.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	5 (100.0)
	その他	1 (50.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
	不明	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族計		21 (42.0)	20 (40.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	1 (2.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	25 (100.0)
合計		59 (29.9)	132 (24.8)	53 (10.0)	51 (9.6)	1 (0.2)	79 (14.8)	57 (10.7)	577 (100.0)

注) それぞれについて「あり」と回答した数と％を記載

(3) 白老の国立の施設を設置することへの賛否

最後に、具体的な事案としての国立施設設置についての賛否動向と交流状況との関わりを見る。「交流あり」の比率を賛否動向によって整理すると、青年層では、「賛成」23.1%、「やや賛成」29.1%、「やや反対」25.0%、「反対」33.4%、壮年層では、「賛成」54.7%、「やや賛成」45.1%、「やや反対」60.9%、「反対」25.0%、老年層では、「賛成」75.3%、「やや賛成」58.9%、「やや反対」53.6%、「反対」61.6%であり、老年層においてのみ、「賛成」と回答する者において「交流あり」の比率が最も高いだけで、どの世代においても、賛同の程度が強い者において「交流あり」の数値が順当に高くなるということにはなっていない（表1-29）¹³⁾。

次に交流内容を見る。それぞれの交流について「交流あり」の比率が高いのはいかなる考え方の者なのだろうか。いくつか取り出してみると、たとえば、「近所付き合い」については、青年層は「反対」と回答する者、壮年層は「やや反対」と回答する者、老年層は「賛成」と回答する者、「職場付き合い」と「趣味の付き合い」では3世代とも「賛成」と回答する者において「交流あり」の数値が最も高い（表1-30）。このように、交流の内容について、施設設置の賛否の別に応じた特徴的な傾向を探り出すことは困難である。

〈和人〉以外のグループについて賛否を探ると、「賛成」と「やや賛成」の合計比率は、〈本人がアイヌの血筋の者〉の壮年層・老年層では100%、〈配偶者がアイヌの血筋の者〉では50.0%、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉青年層では66.7%、壮年層では52.6%、老年層では68.0%であり、〈和人〉以上に施設設置を歓迎しているというわけでもない。交流頻度と交流内容については、〈和人〉と同様、賛否のあり方によって説明することは難しい。

表1-29 アイヌの人々との交流×国立の施設設置賛否（アイヌ性別・世代別）

		度数 (%)					合計
		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	不明	
和人青年層	賛成	4 (15.4)	2 (7.7)	6 (23.1)	13 (50.0)	1 (3.8)	26 (100.0)
	やや賛成	5 (20.8)	2 (8.3)	3 (12.5)	14 (58.3)	0 (0.0)	24 (100.0)
	やや反対	1 (8.3)	2 (16.7)	3 (25.0)	6 (50.0)	0 (0.0)	12 (100.0)
	反対	1 (16.7)	1 (16.7)	1 (16.7)	3 (50.0)	0 (0.0)	6 (100.0)
	不明	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
和人壮年層	賛成	12 (18.8)	23 (35.9)	11 (17.2)	14 (21.9)	4 (6.3)	64 (100.0)
	やや賛成	10 (16.1)	18 (29.0)	12 (19.4)	21 (33.9)	1 (1.6)	62 (100.0)
	やや反対	8 (34.8)	6 (26.1)	0 (0.0)	9 (39.1)	0 (0.0)	23 (100.0)
	反対	0 (0.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	3 (75.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
	不明	0 (0.0)	2 (20.0)	5 (50.0)	2 (20.0)	1 (10.0)	10 (100.0)
和人老年層	賛成	33 (37.1)	34 (38.2)	13 (14.6)	7 (7.9)	2 (2.2)	89 (100.0)
	やや賛成	21 (22.1)	35 (36.8)	20 (21.1)	15 (15.8)	4 (4.2)	95 (100.0)
	やや反対	7 (25.0)	8 (28.6)	6 (21.4)	5 (17.9)	2 (7.1)	28 (100.0)
	反対	4 (30.8)	4 (30.8)	1 (7.7)	3 (23.1)	1 (7.1)	13 (100.0)
	不明	4 (22.2)	6 (33.3)	4 (22.2)	2 (11.1)	2 (11.1)	18 (100.0)
和人 計		111 (23.3)	145 (30.5)	85 (17.9)	117 (24.6)	18 (3.8)	476 (100.0)
本人 (壮)	賛成	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	やや賛成	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人 (老)	賛成	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	やや賛成	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人 計		2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)

配偶者（壮）	やや賛成	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	やや反対	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
配偶者 計		2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（青）	賛成	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	やや賛成	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	やや反対	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（壮）	賛成	1 (25.0)	1 (25.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
	やや賛成	1 (16.7)	4 (66.7)	0 (0.0)	1 (16.7)	0 (0.0)	6 (100.0)
	やや反対	3 (50.0)	1 (16.7)	1 (16.7)	1 (16.7)	0 (0.0)	6 (100.0)
	反対	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
家族（老）	賛成	6 (40.0)	6 (40.0)	1 (6.7)	0 (0.0)	2 (13.3)	15 (100.0)
	やや賛成	0 (0.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	やや反対	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
	反対	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	不明	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
家族 計		21 (42.0)	18 (36.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	3 (6.9)	50 (100.0)
合計		136 (25.6)	163 (30.6)	91 (17.1)	121 (22.7)	21 (3.9)	532 (100.0)

表1-30 アイヌの人々との交流の内容×国立の施設設置賛否（アイヌ性別・世代別）

		度数（％）							合計
		近所 付き合い	職場 付き合い	趣味の 付き合い	子どもを 介した 付き合い	インター ネット	学生時代 からの 付き合い	その他	
和人青年層	賛成	2 (7.7)	6 (23.1)	3 (11.5)	2 (7.7)	0 (0.0)	2 (7.7)	2 (7.7)	26 (100.0)
	やや賛成	3 (12.5)	3 (12.5)	0 (0.0)	4 (16.7)	0 (0.0)	2 (8.3)	0 (0.0)	24 (100.0)
	やや反対	1 (8.3)	2 (16.7)	1 (8.3)	1 (8.3)	0 (0.0)	1 (8.3)	0 (0.0)	12 (100.0)
	反対	1 (16.7)	1 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (16.7)	0 (0.0)	6 (100.0)
	不明	2 (100.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
和人壮年層	賛成	20 (31.3)	20 (31.3)	4 (6.3)	10 (15.6)	0 (0.0)	15 (23.4)	5 (7.8)	64 (100.0)
	やや賛成	16 (25.8)	18 (29.0)	1 (1.6)	7 (11.3)	0 (0.0)	8 (12.9)	6 (9.7)	62 (100.0)
	やや反対	8 (34.8)	7 (30.4)	1 (4.3)	7 (30.4)	0 (0.0)	4 (17.4)	3 (13.0)	23 (100.0)
	反対	1 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
	不明	0 (0.0)	2 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (20.0)	1 (10.0)	10 (100.0)
和人老年層	賛成	35 (39.3)	20 (22.5)	14 (15.7)	3 (3.4)	0 (0.0)	11 (12.4)	10 (11.2)	89 (100.0)
	やや賛成	30 (31.6)	20 (21.1)	10 (10.5)	3 (3.2)	0 (0.0)	13 (13.7)	13 (13.7)	95 (100.0)
	やや反対	7 (25.0)	2 (7.1)	4 (14.3)	1 (3.6)	0 (0.0)	2 (7.1)	3 (10.7)	28 (100.0)
	反対	5 (38.5)	2 (15.4)	1 (7.7)	2 (15.4)	0 (0.0)	2 (15.4)	2 (15.4)	13 (100.0)
	不明	6 (33.3)	7 (38.9)	2 (11.1)	2 (11.1)	0 (0.0)	4 (22.2)	1 (5.6)	18 (100.0)
和人 計		137 (28.8)	111 (23.3)	42 (8.8)	43 (9.0)	0 (0.0)	68 (14.3)	46 (9.7)	476 (100.0)
本人（壮）	賛成	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	やや賛成	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
本人（老）	賛成	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	やや賛成	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人 計		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	やや賛成	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	やや反対	1 (100.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
配偶者 計		1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
家族（青）	賛成	1 (50.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	やや賛成	1 (50.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	やや反対	1 (50.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（壮）	賛成	3 (75.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
	やや賛成	3 (50.0)	3 (50.0)	1 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (33.3)	0 (0.0)	6 (100.0)
	やや反対	0 (0.0)	2 (33.3)	0 (0.0)	1 (16.7)	0 (0.0)	2 (33.3)	1 (16.7)	6 (100.0)

	反対	1 (50.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	不明	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族(老)	賛成	7 (46.7)	2 (13.3)	4 (26.7)	1 (6.7)	0 (0.0)	1 (6.7)	3 (20.0)	15 (100.0)
	やや賛成	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
	やや反対	1 (33.3)	1 (33.3)	1 (33.3)	1 (33.3)	1 (33.3)	1 (33.3)	2 (66.7)	3 (100.0)
	反対	0 (0.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	不明	1 (33.3)	2 (66.7)	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	3 (100.0)
家族計		21 (42.0)	20 (40.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	1 (2.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	50 (100.0)
合計		159 (29.9)	132 (24.8)	53 (10.0)	51 (9.6)	1 (0.2)	79 (14.8)	57 (10.7)	532 (100.0)

注) それぞれについて「あり」と回答した数と%を記載

おわりに

本章では、札幌市およびむかわ町における地域住民とアイヌの人々との交流状況、その交流を枠づけている条件を探ってきた。アイヌの人々との交流がある（「よくある」「たまにある」の合計）住民は、札幌市の3.6%、むかわ町の56.2%であり、札幌市における交流人口がきわめて少数である点が第一に指摘されなければならないだろう。以下、考察から導き出されたことを整理しておく。

まず、交流の全体像を簡単にまとめる。

はじめに〈和人〉について整理すると、札幌市においては各世代の交流頻度は3%前後であり、それほど差は見られないのに対して、むかわ町においては、青年層から老年層へと世代が上がるに従って交流がある者の比率が、青年層約3割、壮年層約5割、老年層約6割と順当に上昇していた。交流内容を見ると、札幌市では「近所付き合い」などをおさえて「その他」の比率が最も高く、このことは、アイヌの人々にまつわる経験が「交流」というほどではない一時的・偶発的な経験としてあげられる傾向として解釈される。具体的には、芸術・文化・生活に関わる催事の鑑賞者あるいは消費者としての関心が先行しているといえる。一方、むかわ町では、「近所付き合い」の数値が最も高く、「近所付き合い」と「職場付き合い」が交流内容の中心を占めていた。このとき、これら2項目の交流に関しては、札幌市とむかわ町いずれにおいても、年代によるライフスタイルの違いが反映されていることが認められた。つまり、就労世代である青年層と壮年層においては「近所付き合い」より「職場付き合い」が中心であり、リタイヤ世代である老年層では「近所付き合い」の比重が高まってくることである。

さて、札幌市における交流人口はこのようにきわめて少ないことから、「交流あり」と回答した人々に関して、さらに多様な視点から交流状況の違いをとらえ、交流を規定する諸条件を探ることには困難があった。したがって、両地域における交流の全体像を確認したうえで、住民の半数超が交流をしているむかわ町に焦点を当て、交流に影響を与えと考えられる6項目についてさらに実態を探ることとした。その結果を以下に記す。

第1に、ジェンダーという視点から見ると、3世代すべてにおいて男性優位であった。この点については、むかわ町では、男性が「職場付き合い」に加えて、どの世代でも「近所付き合い」をそれなりにおこなっていることが男性優位の交流状況を支えていることが明らかとなった。

第2に、地域への根づき方という点から見ると、地元生まれ育った者においては「交流あり」の比率がより高かった。来住先がアイヌ集住地である場合は、その地で暮らす時間の長さが

アイヌの人々との、より多く、より多彩な交流をもたらすことが示された。また、定住志向に関しては、壮年層と老年層に限っては、定住志向を持つ者において「交流あり」の比率が最も高かった。青年層にはそれが当てはまらなかったことについては、世代による定住志向の意味の違いを考える必要があるだろう。さらに、定住志向と交流内容については、定住志向を持つ者においてより多くの項目でよりコンスタントな交流が行われていた。その際、「移りたい」と回答する者においても定住志向を持つ者と同様の傾向を示すところがあり、この違いを十分にとらえることはできなかった。

第3に、地域における諸活動という視点から見たと、近所付き合いを密におこなう者、自治会活動に積極的に取り組む者において「交流あり」と回答する者の比率が高い（自治会活動における「青年層」を除く）という結果であった。「互いの家を行き来する」ほどの深い近所付き合いをする者において、そして自治会活動に「積極的に参加している」者においてより多彩な内容の交流が展開されていることも確認された。選択性の低い近所付き合いに比べると自治会活動の方が意志的な活動であり、その意味で、アイヌの人々との交流のありようにより関わっているのではないと思われる。

第4に、職業生活という点から見ると、ブルーカラー職に分類される職業においてホワイトカラー職よりも交流頻度が高いことが確認された。ブルーカラー職とホワイトカラー職それぞれの交流内容の傾向を抽出することは難しいが、ブルーカラー職に従事する者においてより多彩な内容の交流がなされている。

第5に、個人としてのアイヌ文化の経験から見ると、アイヌの歴史や文化についての知識を獲得し、アイヌの文化に触れる体験をし、さらにアイヌの文化に触れることへの積極的な意志を持つ者においてより高い交流頻度とより多彩な交流が実現される傾向が強いことが認められた。同時に、交流を持つことが、知識や体験を得ることを促し、体験への関心を喚起するという相関関係があることが推察された。

第6に、市民としてのアイヌ文化への関心という点から見ると、アイヌ文化の保存や国立の施設設置への賛否、文化保存の主体についての考え方が異なる者において、交流頻度や交流内容が各世代いろいろな形で異なっている実態は得られたが、一定の傾向を見出すところまではいかなかった。社会の一員としてのアイヌ文化への関心とは、交流の入り口というよりも、むしろ、交流するなかで徐々に明確なものとなっていく類のものかもしれない。交流の種類によっても、考え方の違いが及ぼす影響のあり方は大いに異なることが予想される。他の条件とも関わらせてさらに探っていく必要があるだろう。

最後に、〈和人〉以外のグループ、〈本人がアイヌの血筋の者〉〈配偶者がアイヌの血筋の者〉〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉についてまとめると、アイヌの血筋の者やアイヌ文化とより親しく接してきた者において、アイヌの人々との交流がそれぞれの地域の〈和人〉よりもさかんであることが確認された。さらに世代毎の特徴を探ると、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉においては、両地域とも、青年層の交流頻度が3世代中最も高く、壮年層の交流頻度が最も低いという結果であった。青年層については、アイヌ文化に関する知識を得る過程が交流として回答されたためと思われるが、壮年層の数値の低さの要因をとらえることはできなかった。むかわ町のこれら3グループの交流状況について上記6項

目に関して検討した結果からは、一部の世代について交流の担い手が男性優位である傾向が確認された。しかし、その他の項目については、それらの影響を認めることは総じて難しかった。身内の縁や個人的なきっかけを得て交流が行われているためと考えられる。

以上、札幌市、むかわ町の住民とアイヌの人々との交流状況を考察してきた。より盛んな交流が実現されるには、地域住民として共に暮らす環境に身を置くことが基盤となることは疑いようがないが、ここでは、学校教育あるいはその他の機会を得てアイヌの歴史や文化を学び体験することがより多くの交流につながっていることに注目したい。その際、知識や体験、体験への関心を持つことが交流の入り口となると同時に、交流によって知識と体験の蓄積が促され、体験への関心の深まりが期待される点が重要である。この循環を支えることができる広い意味での教育について考えるべきではないだろうか。

札幌市については詳細な検討がかなわなかったが、今後、交流をしている少数の人々を対象とする聴き取り調査（交流の契機、内容、交流を経ての意識の変化など）をおこなうことによって、アイヌ集住地以外の地域での交流のあり方を展望することができると思われる。地域住民とアイヌの人々との交流が今後どのように展開あるいは変遷していくのか、継続的な探究が求められる。

注

- 1) アイヌ性のうち、〈本人がアイヌの血筋の者〉と〈配偶者がアイヌの血筋の者〉の判定は自由回答にもとづいており、厳密な血筋によってアイヌと判断しているわけではない。自分のことをアイヌと見なしている場合や、アイヌとの交流を尋ねる質問に対して身内やきょうだいをあげている場合、さらにアイヌの家系、家族で育っている場合には〈本人がアイヌの血筋の者〉と判断した。また、アイヌとの交流を尋ねる質問に対して妻や夫をあげている場合は〈配偶者がアイヌの血筋の者〉と判断した。〈家族や親戚からアイヌ文化に関する知識を得た者〉については、「アイヌ文化をどこで（誰から）知ったか」という質問に対する回答として、「家族や親戚」という選択肢を選んだ者を自動的にこのグループとしている。
- 2) 札幌市では「交流あり」の男女別比率が、青年層では、男性2.2%、女性3.5%、壮年層では、男性2.2%、女性2.3%、老年層では、男性6.6%、女性1.7%となり、老年層においてのみわずかなジェンダー差が認められる。老年層はリタイア世代であるため、男性も様々な交流場面に顔を出せるようになることが考えられる。
- 3) 札幌市における青年層の「交流あり」の比率は、「ずっと住みたい」3.2%、「移りたい」0.0%、「移る予定あり」8.3%、「わからない」0.0%となっている。
- 4) 札幌市についても、老年層においてのみ自治会活動への積極度の高低による交流頻度の違いが認められ、積極度が高い者において「交流あり」の数値が順当に高くなっている（「積極的に参加している」15.4%、「ある程度参加している」4.6%、「あまり参加していない」3.2%、「まったく参加していない」0.0%）。自治会活動は、近所付き合いに比べれば、自然発生的な性質のものというよりは、地域の人々との交流への前向きな姿勢が求められる活動である。そうした姿勢を持つことが、アイヌの人々と相対的により多くの交流をおこなうことに結びついていると考えられる。
- 5) なお、この傾向は札幌市についても同様であり、「交流あり」の数値が高い順に職業を並べると、ブルーカラーに分類される職業がほとんどを占めている（青年層では、「技能工」25.0%、「その他」20.0%、「サービスの」5.3%、「専門・技術的」3.8%、壮年層では、「運輸・通信的」14.3%、「技能工」7.7%、「その他」5.9%、「サービスの」5.6%、老年層では、「販売的」12.5%、「技能工」11.1%、「その他」4.5%）。また、札幌市における職業毎の交流内容の特徴をとらえることは困難ではあるが、「職場付き合い」に注目すると、「交流あり」の数値がゼロではない職業はすべてブルーカラー職であるという点は指摘できる。このことから、ブルーカラー職においては、職場付き合いの水準の交流が成立しやすいことが推察される。

- 6) 学校でアイヌの歴史を学んだ経験を持つ者の比率を世代毎に確認すると、「経験あり」は、青年層37.1%、壮年層32.5%、老年層9.5%である。札幌市以上に経験を持たない者の割合が高い（札幌市における「経験あり」は、青年層59.5%、壮年層39.7%、老年層17.9%）。
- 7) 学校でのアイヌ文化の体験状況は、札幌市以上に経験者の比率が低いという実態である（札幌市の「体験あり」は、青年層19.8%、壮年層16.1%、老年層6.1%）。
- 8) 札幌市の「知っている」は、青年層56.5%、壮年層57.1%、老年層51.5%である。
- 9) アイヌ文化に関する体験の有無を世代別に見ていくと、「体験あり」は、青年層12.9%、壮年層14.1%、老年層14.8%である。札幌市における「体験あり」は、青年層24.4%、壮年層18.3%、老年層10.2%であり、青年層における体験ありの比率は札幌市の約半分である。このことから、アイヌ文化に関する体験の多寡は、アイヌ集住地に暮らすことで「自然に」もたらされるものでもないことがうかがわれ、むしろ、アイヌ集住地ではない札幌市の若い世代の方が、学校教育やメディア、各種イベントなど様々な媒体でアイヌ文化に触れる機会により多く恵まれていると考えることができる。
- 10) アイヌ文化に関する体験希望者の比率を世代毎にみると、「希望あり」は、青年層18.6%、壮年層22.7%、老年層18.9%である。札幌市より全体として低めであり、また、その比率は世代間で若干の差はあるものの大きくは変わらない（札幌市における「希望あり」は、青年層42.7%、壮年層37.5%、老年層25.5%）。
- 11) 世代毎のアイヌ文化保存への賛同意志を見ると、「そう思う」「ある程度そう思う」の合計は、青年層では70.0%、壮年層では74.2%、老年層では77.8%であり、札幌市に比較すると賛同する者の比率は低い（札幌市の「そう思う」「ある程度そう思う」と回答する者は、青年層では91.6%、壮年層では89.7%、老年層では89.3%）。
- 12) アイヌ文化保存の主体を問うた答えを世代毎に比較すると、青年層では、「アイヌの人々」32.9%、「国として」38.6%、「地域ごと」25.7%、「その他」2.9%、壮年層では、「アイヌの人々」30.1%、「国として」37.4%、「地域ごと」27.6%、「その他」2.5%、老年層では、「アイヌの人々」24.7%、「国として」37.4%、「地域ごと」28.0%、「その他」4.9%となる。3世代共通して、国が中心となって取り組むことを一番にあげており、また、アイヌの人々主体で保存すべきと考える者は若い世代になるほど増加する。なお、札幌市において「国として」と回答する者は、青年層の49.6%、壮年の52.7%、老年層の61.7%である。
- 13) 国立の施設を設置することへの賛同傾向を「賛成」「やや賛成」の合計としてとらえるなら、賛同する者は、青年層71.4%、壮年層77.3%、老年層75.7%であり、3世代ともほぼ同じ比率といえる。アイヌ文化の主体について問われた際に「国として」という意見の比率が各世代で最も高かったことと矛盾しない。その数値は、札幌市と比べると全世代において低めである（札幌市における「賛成」「やや賛成」の合計は、青年層89.3%、壮年層88.4%、老年層89.8%）。

参考文献

- 小内透編著, 2013, 『調査と社会理論・研究報告書30 新ひだか町におけるアイヌ民族の現状と地域住民』北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室。
- , 2014, 『調査と社会理論・研究報告書31 伊達市におけるアイヌ民族の現状と地域住民』北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室。
- , 2015, 『調査と社会理論・研究報告書33 白糠町におけるアイヌ民族の現状と地域住民』北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室。

(小野寺理佳)